

西九州させぼ広域都市圏ビジョンイメージ案

平成31年〇月

佐世保市

目次

I 都市圏ビジョンの概要

1 策定の趣旨	1
2 連携中枢都市圏の名称・構成自治体	2
3 計画期間	2

II 圏域の現状

1 西九州させば広域都市圏と構成自治体の概要	3
2 圏域の人口動態	10
3 圏域の都市機能の集積状況	14

III 西九州させば広域都市圏の将来像

1 目指すべき将来の姿	26
2 将来の圏域人口の目標	26

IV 将来像の実現に向けた具体的取組

1 圏域全体の経済成長のけん引	28
2 高次都市機能の集積・強化	31
3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上	33

I 都市圏ビジョンの概要

1. 策定の趣旨

我が国は少子高齢化、人口減少社会への道を緩やかに歩みだし、今後、この傾向は加速的に長期に亘って続くと見込まれています。

人口減少社会の到来によって、今後、各々の自治体がフルセットで行政サービスの提供や、都市機能を保有することが難しくなる時が必ず訪れると想定されます。

このため、行政区域の枠を超え、社会的、経済的に関係性のある自治体との横の繋がりを持ちながら、行政サービスの効率化に向け、医療や交通、産業等といった分野で連携しながら地域の社会・経済を支えていくことが重要となっておりま。

そして、このような社会の構造的転換には相当の時間が必要となることから、これらに係る取り組みは出来るだけ早くスタートさせることが肝要であり、この取り組みを着実に進めることによって、厳しい財政状況を支える地域経済の活性化や、東京への人口一極集中といった都市部への人口流出に歯止めをかけ、人を滞留させていくことが可能になると考えられます。

連携中枢都市圏の意義としては、地域において、相当の規模と中核性を備える圏域において市町村が連携し、コンパクト化とネットワーク化により、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成するとされています。

本ビジョンは、佐世保市を中心市とする西九州北部地域等の各自治体が行政区域の枠を超え、行政サービスの効率化に向けて医療や交通、産業等といった分野で相互に強みを伸ばし、弱みを補完しながら圏域全体を活性化し、持続可能な魅力ある地域社会の発展へと繋げていくことを目的に、圏域が目指す中長期的な将来像を策定するものです。

2. 連携中枢都市圏の名称・構成自治体

(1) 連携中枢都市圏の名称

「西九州させぼ広域都市圏」

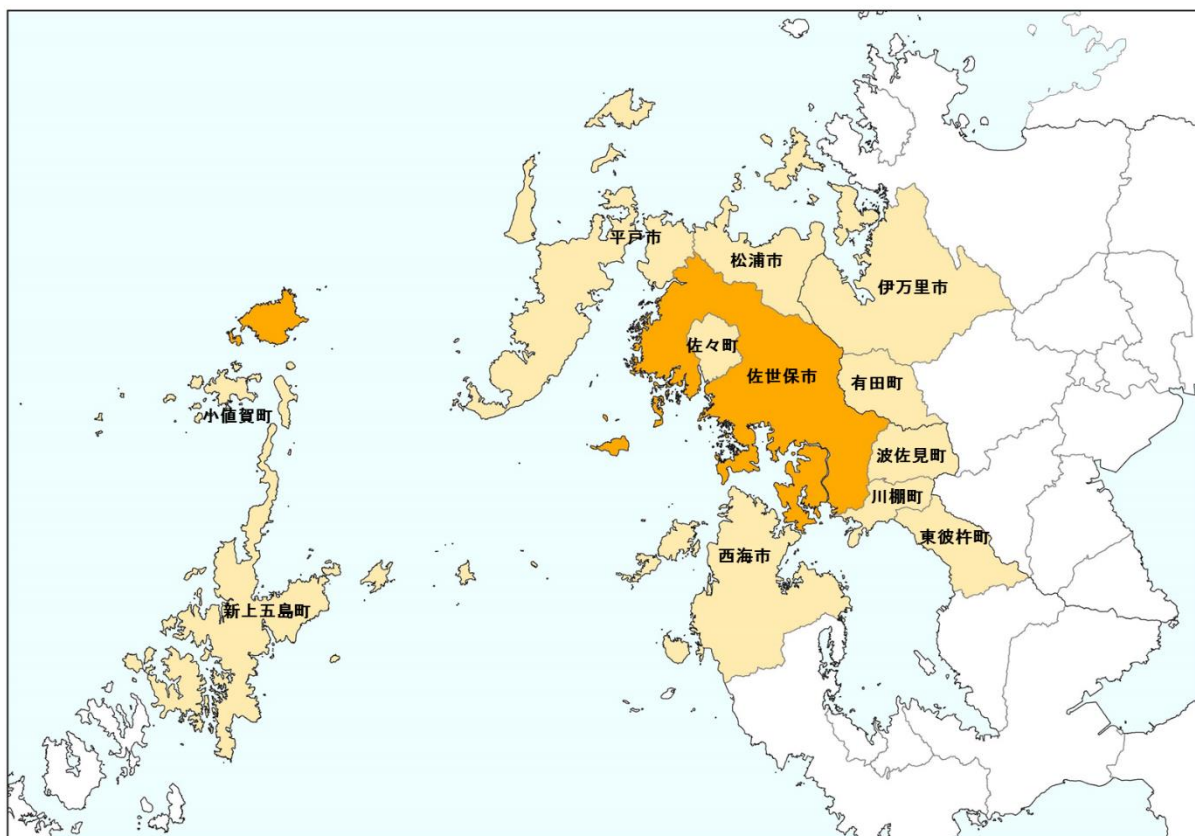
※以下本ビジョンでは西九州させぼ広域都市圏を「圏域」という。

(2) 連携中枢都市圏の構成自治体

長崎県：佐世保市（連携中枢都市）、平戸市、松浦市、西海市、佐々町、川棚町、
波佐見町、東彼杵町、小値賀町、新上五島町

佐賀県：伊万里市、有田町

【合計 5 市 7 町】



3. 計画期間

計画期間は、2019 年度から 2024 年度までの 5 年間とします。（※毎年度所要の変更有り）

Ⅱ 圏域の現状

1. 西九州させぼ広域都市圏と構成自治体の概要

(1)西九州させぼ広域都市圏の概要

本圏域は九州北西部に位置し、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟認定された九十九島をはじめとする多くの自然と温暖な気候に恵まれ、世界遺産に認定された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」や、長崎・佐賀両県にまたがる日本遺産である「肥前窯業圏」等、数多くの地域資源を有する地域です。

また、造船業等に代表されるものづくり産業や、全国上位の水揚げ量を誇る水産業等、全国に誇れる魅力的な地域資源を有しています。

(2)構成自治体の概要

①佐世保市（連携中枢都市）

佐世保市は、九州の西北部、長崎県の北部に位置し、面積約 427 k m²、人口約 25 万人を有する都市です。

明治 22 年に海軍佐世保鎮守府が設置されて以降、戦前は海軍とともに発展し、戦後は平和産業港湾都市として、造船や炭鉱を柱にした発展を経て、現在は、造船等の製造業並びに県北地域の商業・サービス業の中心都市となっており、平成 28 年 4 月には中核市へ移行しました。

また、大小 208 の島々が織りなす美しい景観を誇る多島海「西海国立公園九十九島」を有し、遊覧船や水族館、自然との触れ合いも楽しめるとともに、日本最大級のテーマパーク「ハウステンボス」、日本遺産に認定された「佐世保鎮守府」や「三川内焼」を有する観光都市でもあり、みかんや牡蠣等の農水産物にも恵まれ、これら観光資源や国際色を生かした魅力あるまちづくりに取り組んでいます。



西海国立公園九十九島

②平戸市

平戸市は古くから大陸交流の玄関口として栄え、平安時代から中国や朝鮮との交易の中継地となり遣唐・遣隋使の寄港地として空海や栄西なども立ち寄っています。

16 世紀には、日本に初めて来航したポルトガル船が平戸に入港し、南蛮貿易が行われました。17 世紀前半には、オランダやイギリスの商館が設置されるなど海外文化やキリスト教伝来の窓口となり、市内には田平天主堂、宝亀教会など 14 の教会が存在します。

生月地区や大島地区には捕鯨で栄えた歴史があり、江戸時代後期には益富組、井元氏鯨組など西海捕鯨の中心地として名を馳せ、特に生月地区の益富組は日本最大の規模に達しました。

平戸市は、九州の西、長崎県の北西端に位置し、平戸島、生月島、大島、度島、高島の有人島及び九州本土西北部沿岸部に位置する田平地域と周辺の多数の島々で構成され、総面積は約 235 km²となっています。産業においては、本市の主要産業である農業、漁業、サービス業のうち、特に農業、漁業などの第 1 次産業の比率は、平成 27 年で約 20%（県内平均の約 2.5 倍）と高い割合になっています。



寺院と協会の見える風景



平戸大橋

③松浦市

松浦市は、長崎県本土の北端に位置し、面積は 130.38 km²。

北は伊万里湾に面し、他の三方は佐世保市、平戸市、佐賀県伊万里市と接しています。山地が多く、海岸線は入り組んでいる風光明媚な景観であり、一部は玄海国定公園、県立公園となっています。

例えば、48の無人島からなる国定公園のイロハ島や日本の棚田百選に選ばれた「土谷棚田」、白い砂浜が広がる宝の浜などの美しい景観、養殖生産量トップクラスのとらふぐや、日本有数の水揚量を誇る旬あじ・旬さば、築地市場で高い評価を受けている養殖車エビなどの美味しい食材、元寇の歴史と水中考古学の研究拠点であり、海底遺跡としては、日本初の国史跡「鷹島神崎遺跡」など「食・歴史・体験」の魅力あふれるまちであり、体験型旅行で年間約3万人の観光客が訪れており、現在、整備中の高規格道路「西九州自動車道」が完成すると福岡都市圏まで約70分でつながります。

産業としては、農業・水産業のほか、繊維などの製造業が主であり、現在建設中の九州電力株式会社の2号機が完成すると電源開発株式会社とあわせた両電力で370万キロワットという日本一の発電量を誇る松浦火力発電所があります。



松浦火力発電所



松浦魚市場・松浦市水産加工団地

④西海市

西海市は3方を海に囲まれており、東岸は大村湾に、西岸は外海の五島灘、角力灘、北岸は佐世保湾に面しています。

また、複雑な地形を持った海岸線や、点在する大小さまざまな島、丘陵起伏が続く地形といった美しく優れた自然景観を有しており、西海国立公園、大村湾県立公園、西彼杵半島県立公園の3つの自然公園に指定されています。

1562年に日本最初のキリシタン大名である大村純忠が横瀬浦（西海町）にポルトガルとの貿易港を開港したことから、本市は南蛮貿易やキリスト教とゆかりの深い歴史を持っています。また、江戸時代には大村藩に属しており、大村藩の捕鯨基地としても栄えました。

町村制が施行された明治22年4月時点では、13村で構成されていました。その後の合併、編入、町名変更を経て昭和44年1月に西彼町、西海町、大島町、崎戸町、大瀬戸町の5町構成となり、平成17年4月1日に5町が対等合併し西海市となりました。

西海市の水産業は沿岸漁業が中心で、南東部の大村湾沿岸ではナマコやカキ、真珠など、北部・西部の五島灘ではアラカブ（カサゴ）、クエ、ブリ、マダコ、アワビ、イセエビ、ウニ、ワカメ、ヒジキなど、多くの水産物が漁獲されます。

農産物では、ミカン、ばれいしょ、アスパラガス、スイカのほか、西海町のゆで干し大根、大島町の完熟トマトなどが特産品として売り出されています。

また、大瀬戸町松島には電源開発松島火力発電所、大島町には大島造船所、崎戸町にはダイヤソルト崎戸製塩所があります。



大島大橋



国指定天然記念物七ツ釜鍾乳洞

⑤東彼杵町

長崎県のほぼ中央に位置する東彼杵町は、古くから長崎街道と平戸街道が交わる陸海交通の要衝として栄えた町です。現在でも2つの国道のほか、長崎自動車道が町を縦断、南西に臨む波静かな大村湾の海岸線には、長崎・佐世保間を繋ぐJR大村線が走り、隣接する大村市にある長崎空港にも車で約30分と、陸海空の交通アクセスに恵まれた町です。

基幹産業である農業は、お茶、水稻、みかん、イチゴ、アスパラガスなどの生産が盛んで、特にお茶は、長崎玉緑茶の生産量の大半を占め、「そのぎ茶」のブランドで消費者に親しまれています。

平成29年度は、第71回全国お茶まつり茶品評会、蒸し製玉緑茶の部で農林水産大臣賞を受賞、優秀な産地に贈られる産地賞や青年茶審査技術競技会、さらには消費者が選ぶ日本一美味しいお茶「日本茶アワード2017」でも「日本茶大賞」に選ばれるなど、お茶日本一四冠を達成、茶産地としての力を全国に示しました。

県、町の工業団地による商工業振興のほか、お茶と四季折々の美しい景観を活かしたグリーンティリズムによる観光振興にも取り組み、「一流の田舎」づくりを目指しています。



そのぎ茶



千綿駅（井口勝也氏撮影）

⑥川棚町

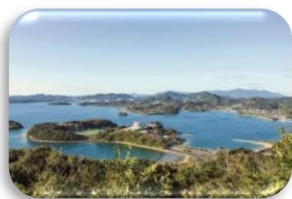
川棚町は連携中枢都市である佐世保市に隣接し、人口約14,100人、面積約37km²と比較的小さいながらも、行政・金融・交通機関等の施設がまちなかに集約されたコンパクトで住みよい町です。

南は波穏やかな内海「大村湾」に面し、東には特徴的な山容から九州のマッターホルンの愛称で親しまれている標高608メートルの秀峰・「虚空蔵山」がそびえ、周囲の山々からの

清流を集めた「川棚川」が中央部の平地を貫流しています。文字通り「海・山・川」の豊かな自然環境が調和した風光明媚な町です。

町西部の大崎半島一帯は県立自然公園に指定され、インドクジャク 200 羽が迎える「くじやく園」や優美なデザインの国民宿舎「くじやく荘」、併設する温浴施設「しおさいの湯」等の観光施設をはじめ海水浴場やキャンプ場なども整備され本町の一大観光拠点となっています。

特産物は日本一の荣誉に輝いた「長崎和牛」をはじめ、甘みに富んだ「小串トマト」、やわらかい身が定評の滋味深い「川棚なまこ」等、豊かな風土が育んだ農産物・海産物を楽しめます。「自然を愛し、くらし輝くまち」を将来像に掲げ、各種の政策を推進しています。



川棚大崎自然公園



川棚大崎自然公園

⑦波佐見町

波佐見町は、400年の歴史を誇る窯業（波佐見焼）と農業の町です。

日本の棚田百選に選ばれた「鬼木棚田」や農場整備の進んだ田園風景が広がっており、緑豊かな街並みを形成しています。

波佐見焼は全国の日用食器の約12%のシェアを持ち、普段使いの器として、その時々時代のニーズに合わせてデザインした手の届きやすい焼き物をつくっています。

今の波佐見町は“観光が楽しい町”でもあります。毎年4月には陶郷中尾山での「桜陶祭」、5月のゴールデンウィークには30万人もの来訪者で賑わう「波佐見陶器まつり」、10月から12月にかけては「秋陶めぐり」「皿山器替えまつり」など、作り手とふれあいながら波佐見焼を購入できるイベントを頻繁に開催しています。

ほかにも、夏の時期に豊かな自然や清流を楽しむイベント、実りの秋には美しい稲穂と面白い案山子が出迎える「鬼木棚田まつり」、秋から冬にかけてのスポーツイベントと、毎月イベントが盛りだくさんです。

また、波佐見焼と農業を組み合わせた体験型観光「とうのう」（陶器の「とう」、農業の「のう」）や、古い建物をオシャレにリノベーションしたカフェや雑貨屋がある「西の原」、波佐見焼のショップも立ち並んでおり、町を挙げて一年中楽しめる町を作り上げています。



波佐見陶器まつり



鬼木棚田

⑧小値賀町

小値賀町は、長崎県五島列島の北端部に位置する外海離島で、小値賀本島を中心に大小 17 の島で構成される火山活動によって生じた珍しい群島です。

総面積は 25.52 k m²で、島嶼部でありながら地形は平坦であり、複雑な海岸線が織りなす美しい自然環境に恵まれ、島のほとんどが西海国立公園に指定されています。

気候は対馬暖流の影響か、温暖で寒暖の差が少なく、年間平均気温は 17 度前後ですが、風は本土と比較して強く、特に冬季における北西からの季節風は、強烈な寒風となります。

小値賀本島へのアクセスは、定期便は船便のみであり、交通の起点となっている佐世保市までは航路距離 90 k m の位置にあり、フェリーと高速船がそれぞれ 1 日 2 往復運航し、所要時間はフェリーが 2 時間 30 分～3 時間 30 分で、高速船は 1 時間 25 分～2 時間です。

また、福岡からもフェリーが 1 日 1 往復運航しており、所要時間は 4 時間 55 分です。航空路は、昭和 60 年 12 月から O R C（旧長崎航空）の定期便が就航し、長崎～小値賀、福岡～小値賀が結ばれていましたが、採算性の問題から平成 18 年 3 月に廃止され、現在は、盆や年末年始におけるチャーター機の運航や救急患者のヘリ輸送等に活用されています。



旧野首教会



姫の松原

⑨佐々町

佐々町は、古くは佐々村、市瀬村が明治 22 年に合併して佐々村となり、大正から昭和にかけての炭鉱全盛期には、人口が 2 倍に膨れ上げるほどの勢いで急速に発展し、昭和 16 年に町制を施行しました。

近年は、佐世保市のベッドタウンとして発展してきましたが、平成 23 年 9 月に西九州自動車道の佐々インターチェンジの供用が開始されたことにより、佐世保市などへのアクセスが格段に向上したことで、今後更なる発展が期待されます。

佐々町は、長崎県の北部に位置し、東境には葦岳から牟田原に連なる山脈があり、西境の盲ヶ原から北境の鷲尾岳まで江里山脈が連なっています。

この間に佐々谷と呼ばれる縦谷が形成され、国見山（佐世保市世知原町）に源流を発する延長 21.9 k m におよぶ佐々川が町の中央を北東から南へ貫流し、川に沿って平野が開け、町が展開しています。

町のシンボルである佐々川は、生物多様性に富んでおり、カブトガニやハクセンシオマネキなどの絶滅危惧種も多数生息しています。

平均気温は約 17 度、平均湿度は約 65 % で温順な恵まれた環境になっており、これらの自然条件を活かして、平野部や中山間地では水稻栽培、いちご栽培が行われています。



佐々川のシロウオ漁・河津桜



皿山菖蒲園

⑩新上五島町

新上五島町は、九州の西端、長崎県五島列島の北部に位置し、中通島と若松島を中心とする7つの有人島と60の無人島から構成され、全般に細長く、急峻な山々が連なり、東は五島灘、西は東シナ海に面しており、海岸延長は約429kmにおよび、海と山の豊かな自然を擁する新上五島町は、その大部分が西海国立公園に指定されています。

遠浅で砂浜が美しい蛤浜海水浴場やリアス式海岸の入江が織りなす美しい景観の若松瀬戸、国の天然記念物に指定されている奈良尾神社の樹齢650年を越す巨木のあこう樹、椿の原生林など、多くの自然資源が残されています。

世界遺産登録を目指す「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産である頭ヶ島の集落には、キリシタンの歴史を物語る教会や遺産がある一方で、日本遺産「国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～」に認定されている、「遣唐使史跡」や「青方神社」などもあり、異なる宗教が地元の方々の生活に溶け込み、共存してきた「祈りの島」としての歴史があります。

さらに、国指定重要無形民俗文化財である、「五島神楽」などの伝統行事といった歴史的、文化的遺産が数多く残っており、上五島独自の文化を形成しています。

新上五島町は、日本有数の好漁場として水産資源に非常に恵まれており、定置網のほか、まき網や船びき網、一本釣等の漁船漁業と養殖業が営まれ、多種多様な水産物が水揚げされています。

また、遣唐使が伝えたとも言われる五島うどんの産地であり、日本三大うどんの一つにも挙げられており、五島列島地域にゆかりの深い椿の実から搾った椿油が表面に塗られ、コシの強さ、のどごしの良さが特徴です。



頭ヶ島天主堂



若松瀬戸

⑪伊万里市

伊万里市は、佐賀県の西北部に位置し、人口約5万6千人、面積255.25平方キロメートルの市域を有しており、国見山を挟んで佐世保市に隣接しています。

中心市街地は江戸時代に当時は「伊万里」と称される肥前磁器の積み出し港として栄え、また、大川内山では陶磁美の粋を結晶させた「鍋島」を生み出すなど、文化的な都市として

繁栄してきました。「伊万里焼」の名称は国内のみならず世界的にも著名であり、平成28年には「日本磁器のふるさと 肥前」として近隣市町とともに日本遺産に認定されました。

伊万里ブランドとして名高い伊万里牛や伊万里梨に代表される農業が市内各地で営まれています。

今日では、臨海部を中心に製造業が集積し、伊万里港においては、国の重点港湾および日本海側拠点港に選定されるとともに、韓国・釜山、中国・大連、上海などとの国際コンテナ定期航路が開設され、九州でも有数のコンテナ取扱港となっています。

さらに、西九州自動車道伊万里東府招インターチェンジが平成29年度に開通したことで、福岡都市圏まで約1時間での移動が可能となり、本市の産業経済、観光文化の振興・活性化に大きな効果が期待されています。



伊万里焼・鍋島焼



カブトガニ・カブトガニ繁殖地

⑭有田町

有田町は佐賀県の西部に位置する人口約21,000人、面積65.85平方キロメートルの町です。

2006年3月1日に、旧有田町と旧西有田町が合併し新しい「有田町」が誕生しました。美しい景観を誇る田園地帯や、黒髪連山など豊かな自然に恵まれた町です。

古くからやきものの町として有名な有田町は、1616年に朝鮮人陶工李参平らによって泉山に陶石が発見され、日本で初めて磁器が焼かれました。以来、佐賀藩のもとで、磁器生産が本格化し、谷あいには「有田千軒」と呼ばれる町並みが形成され、繁栄を極めました。

この町並みは、現在も歴史的価値の高い建物が数多く残っており、1991年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に、2017年には国際記念物遺跡会議（イコモス）の国内委員会の後世に残したい「日本の20世紀遺産20選」に選定されています。

一方で、有田町は「棚田」という特徴的な景観を持つ稲作地であり、県下有数の畜産地でもあります。

有田焼の「器」と農業の「食」、両方の魅力を堪能できる有田町。伝統と歴史、豊かな観光資源を生かした町づくりに取り組んでいます。



内山地区のまちなみ



岳の棚田
(Tシャツアート)

2. 圏域の人口動態

(1) 圏域の総人口の推移及び将来推計人口の推移

本圏域の総人口は、現在に至るまで減少傾向が続いており、将来推計においても減少し続け、平成 57 年（2045 年）には、34 万 5 千人程度になると予測されています。

構成市町の中では、佐々町、川棚町が増加傾向にあったものの、平成 22 年（2010 年）以降は、全ての構成市町が減少に転じています。

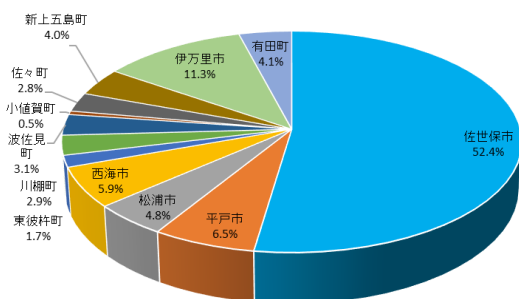
〔図表 1-1 圏域構成市町の総人口推移・将来推計人口推移〕

	昭和55年 (1980年)	平成2年 (1990年)	平成12年 (2000年)	平成22年 (2010年)	平成32年 (2020年)	平成42年 (2030年)	平成52年 (2040年)	平成57年 (2045年)
佐世保市	288,231	280,261	274,399	261,101	248,176	230,906	211,781	202,094
平戸市	50,849	46,572	41,586	34,905	28,890	23,132	17,875	15,440
松浦市	32,478	31,254	28,370	25,145	21,403	17,767	14,358	12,741
西海市	41,064	37,610	35,288	31,176	26,369	21,888	17,766	15,801
東彼杵町	10,353	10,188	10,026	8,903	7,727	6,583	5,432	4,829
川棚町	14,479	14,599	15,325	14,651	13,414	11,896	10,164	9,293
波佐見町	15,498	15,728	15,462	15,227	14,441	13,302	12,020	11,360
小値賀町	5,684	4,651	3,765	2,849	2,234	1,632	1,156	942
佐々町	11,812	12,068	13,335	13,599	13,485	12,880	11,948	11,473
新上五島町	38,140	32,123	27,559	22,074	17,278	12,965	9,323	7,685
伊万里市	61,243	60,882	59,143	57,161	53,008	48,109	42,938	40,270
有田町	23,495	23,413	22,314	20,929	19,227	17,207	15,046	13,936
圏域 計	593,326	569,349	546,572	507,720	465,652	418,267	369,807	345,864

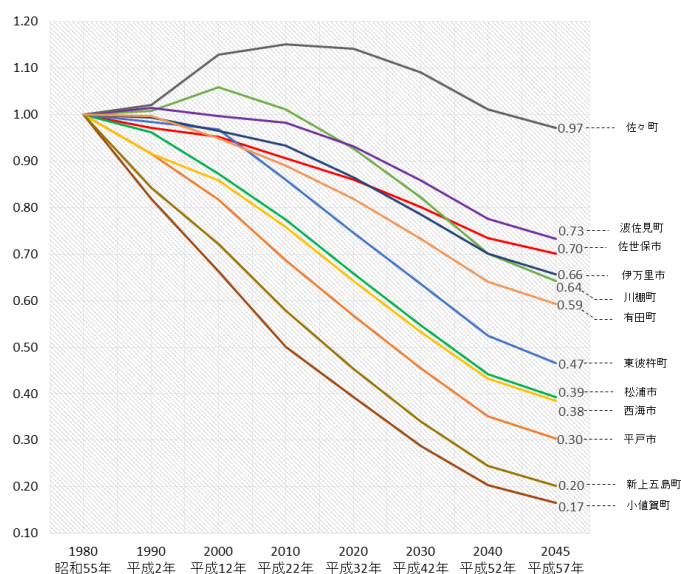
（出典）「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成 30 年 3 月）

〔図表 1-2 圏域の人口構成及び総人口・将来推計人口推移グラフ〕

【人口構成比：平成27年国勢調査】



【人口推移：1980を1.0とした場合】



（出典）国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成 30 年 3 月）

(2) 圏域の年齢別人口長期推移

圏域の年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15歳～64歳）は減少傾向が続くと予測されており、老年人口（65歳以上）は平成32年（2020年）までは増加傾向にあるものの、以降、減少に転じる予測となっています。

また、本圏域の年齢別人口構成比率の推移については、生産年齢人口（15歳～64歳）の比率の減少傾向が顕著となっている一方、年少人口（0歳～14歳）の比率は約12%台を維持する傾向が予測されています。

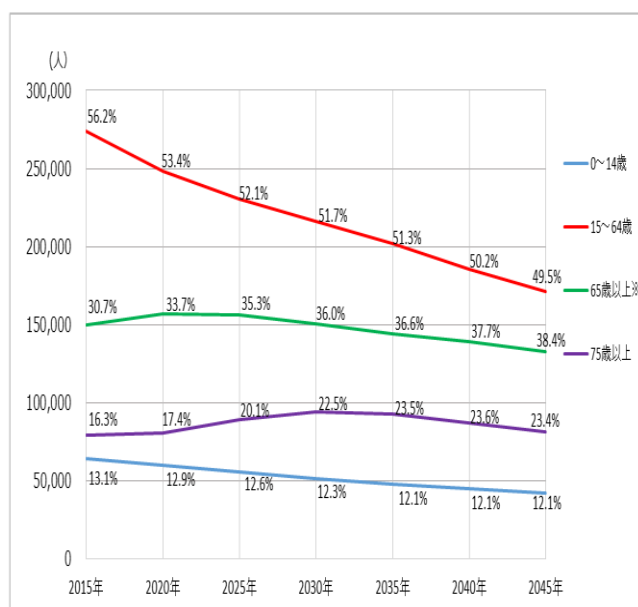
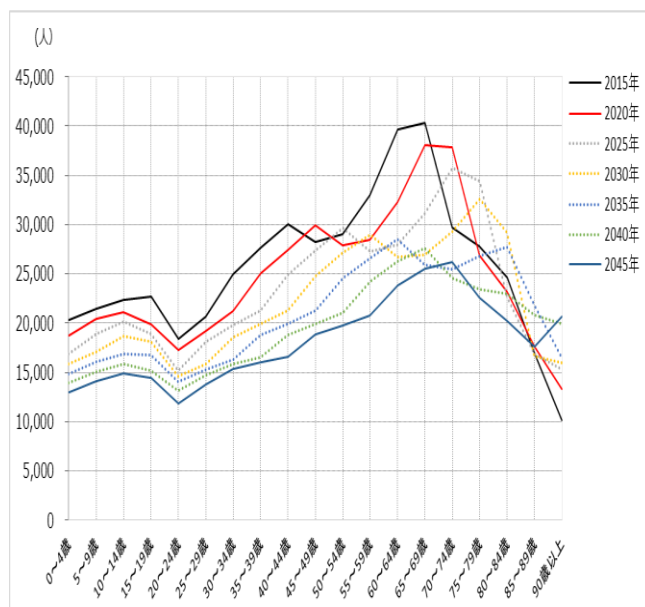
〔図表 2-1 圏域の年齢別人口長期推移〕

男女計	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
総数	487,905	465,652	442,163	418,267	394,093	369,807	345,864
0～4歳	20,294	18,704	16,884	15,889	14,876	13,889	12,918
5～9歳	21,440	20,419	18,872	17,052	16,067	15,055	14,061
10～14歳	22,323	21,131	20,160	18,647	16,857	15,889	14,897
15～19歳	22,649	19,820	18,903	18,078	16,797	15,226	14,386
20～24歳	18,381	17,317	15,193	14,612	14,044	13,100	11,890
25～29歳	20,662	19,182	18,060	15,887	15,297	14,770	13,779
30～34歳	25,004	21,248	19,797	18,614	16,347	15,830	15,357
35～39歳	27,647	25,021	21,336	19,924	18,778	16,536	16,058
40～44歳	30,037	27,450	24,853	21,260	19,874	18,790	16,615
45～49歳	28,224	29,968	27,404	24,804	21,255	19,890	18,844
50～54歳	29,078	27,852	29,622	27,144	24,584	21,087	19,751
55～59歳	32,924	28,432	27,242	29,006	26,633	24,173	20,751
60～64歳	39,609	32,270	27,895	26,763	28,510	26,240	23,869
65～69歳	40,320	38,073	31,124	26,975	25,913	27,622	25,470
70～74歳	29,745	37,809	35,744	29,319	25,487	24,542	26,171
75～79歳	27,800	26,891	34,359	32,548	26,825	23,402	22,610
80～84歳	24,662	23,130	22,588	29,138	27,689	23,016	20,209
85～89歳	16,929	17,641	16,822	16,669	21,847	20,880	17,605
90歳以上	10,177	13,294	15,305	15,938	16,413	19,870	20,623
0～14歳	64,057	60,254	55,916	51,588	47,800	44,833	41,876
15～64歳	274,215	248,560	230,305	216,092	202,119	185,642	171,300
65歳以上※	149,633	156,838	155,942	150,587	144,174	139,332	132,688
75歳以上	79,568	80,956	89,074	94,293	92,774	87,168	81,047

※65歳以上は75歳以上人口含む

（出典）国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成30年3月）

〔図表 2-2 圏域の年齢別人口長期推移・人口構成比率〕



※65歳以上は75歳以上人口含む

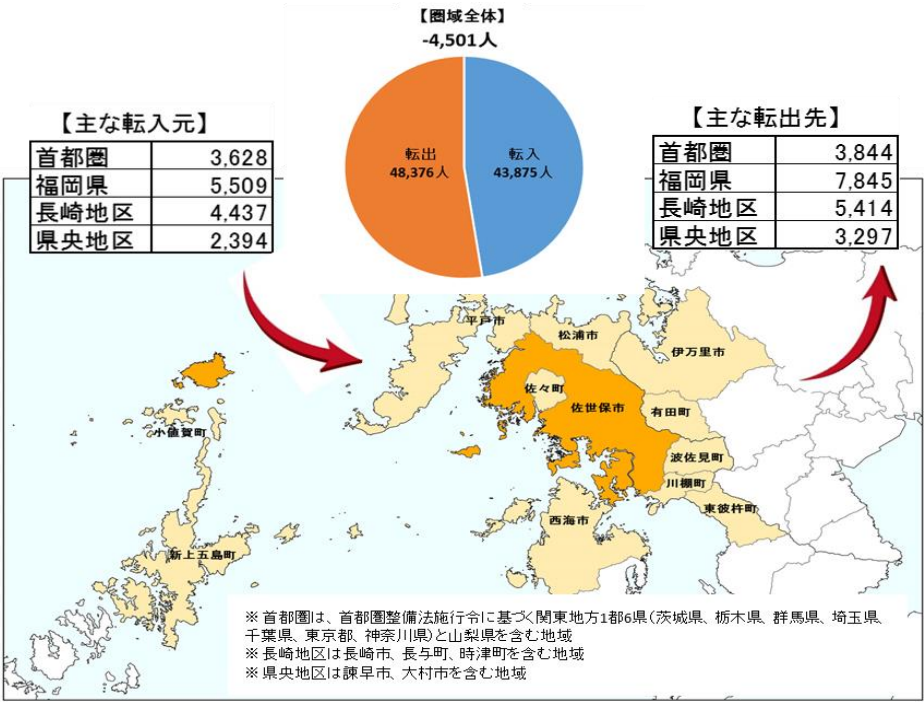
（出典）国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成30年3月）

〔3〕圏域の社会動態

本圏域全体では、4,501 人の転出超となっています。特に首都圏、福岡県への転出者数は 11,689 人で、転出者全体の約 24.2%を占め、約 4 人に 1 人が転出しています。

本圏域内の動きでは、佐世保市、東彼杵町、波佐見町、佐々町、伊万里市、有田町が転入超となっているものの、圏域外の動きも合わせると、波佐見町、佐々町を除き、転出超となっています。

〔図表 3-1 圏域の社会動態の状況〕



(出典) 平成 27 年国勢調査 (5 年前 (平成 22 年 10 月 1 日) の居住地移動状況集計)

〔図表 3-2 構成市町における居住地移動状況〕

	①の内訳													圏域外計 ②	②の内訳（一部）					計③ ①＋②
	①	佐世保市	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町		福岡県	首都圏	長崎地区	県央地区		
佐世保市	740		497	226	293	11	3	▲ 132	22	▲ 192	78	▲ 13	▲ 53	▲ 1,021	▲ 1,228	▲ 251	▲ 215	▲ 283	▲ 281	
平戸市	▲ 644	▲ 497		▲ 27	7	▲ 2	▲ 4	▲ 7	▲ 2	▲ 94	9	▲ 29	2	▲ 613	▲ 210	49	▲ 73	▲ 93	▲ 1,257	
松浦市	▲ 491	▲ 226	27		▲ 3	2	▲ 4	2	0	▲ 41	▲ 4	▲ 210	▲ 34	▲ 174	▲ 86	6	▲ 35	▲ 67	▲ 665	
西海市	▲ 325	▲ 293	▲ 7	3		▲ 4	▲ 15	▲ 6	1	0	▲ 2	▲ 2	0	▲ 307	▲ 72	10	▲ 284	▲ 116	▲ 632	
東彼杵町	60	▲ 11	2	▲ 2	4		64	▲ 4	0	▲ 2	9	▲ 2	2	▲ 170	▲ 22	19	▲ 9	▲ 97	▲ 110	
川棚町	▲ 95	▲ 3	4	4	15	▲ 64		▲ 41	4	2	4	▲ 11	▲ 9	▲ 244	▲ 96	▲ 7	▲ 60	▲ 99	▲ 339	
波佐見町	177	132	7	▲ 2	6	4	41		▲ 4	4	1	▲ 13	1	▲ 152	▲ 61	▲ 3	20	4	25	
小値賀町	▲ 22	▲ 22	2	0	▲ 1	0	▲ 4	4		0	▲ 2	0	1	10	21	22	▲ 10	▲ 14	▲ 12	
佐々町	322	192	94	41	0	2	▲ 2	▲ 4	0		▲ 5	▲ 4	8	▲ 227	▲ 76	▲ 4	▲ 12	▲ 10	95	
新上五島町	▲ 90	▲ 78	▲ 9	4	2	▲ 9	▲ 4	▲ 1	2	5		2	▲ 4	▲ 598	▲ 156	34	▲ 248	▲ 106	▲ 688	
伊万里市	241	13	29	210	2	2	11	13	0	4	▲ 2		▲ 41	▲ 629	▲ 221	▲ 74	▲ 32	▲ 18	▲ 388	
有田町	127	53	▲ 2	34	0	▲ 2	9	▲ 1	▲ 1	▲ 8	4	41		▲ 376	▲ 129	▲ 17	▲ 19	▲ 4	▲ 249	
合計	0	▲ 740	644	491	325	▲ 60	95	▲ 177	22	▲ 322	90	▲ 241	▲ 127	▲ 4,501	▲ 2,336	▲ 216	▲ 977	▲ 903	▲ 4,501	

※5年前(平成22年10月1日)の居住地移動状況集計(5年前にどこに居住していたのか)

※首都圏は、首都圏整備法施行令に基づく関東地方1都6県(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)と山梨県を含む地域

※長崎地区は長崎市、長与町、時津町を含む地域

※県央地区は諫早市、大村市を含む地域

(出典) 平成 27 年国勢調査 (5 年前 (平成 22 年 10 月 1 日) の居住地移動状況集計)

(4)圏域内自治体から佐世保市への通勤・通学の状況

佐世保市への通勤通学割合は、佐々町、川棚町、波佐見町及び西海市が 10%を超えており、その中でも佐々町から佐世保市への通勤通学割合が 44.7%と高くなっています。

〔図表 4-1 佐世保市への通勤通学割合〕

構成市町	常在する 就業・通学者数(人)	佐世保市への 就業・通学者数(人)	佐世保市への 通勤通学割合(%)
平戸市	14,862	1,074	7.2
松浦市	11,788	972	8.2
西海市	14,120	1,436	10.2
東彼杵町	4,234	356	8.4
川棚町	7,712	1,862	24.1
波佐見町	8,295	1,748	21.1
小値賀町	898	1	0.1
佐々町	7,685	3,433	44.7
新上五島町	9,148	7	0.1
伊万里市	30,519	582	1.9
有田町	10,959	869	7.9

※「常在する就業・通学者数」は、自宅で従業する者の数を除く。

(出典) 平成 27 年国勢調査

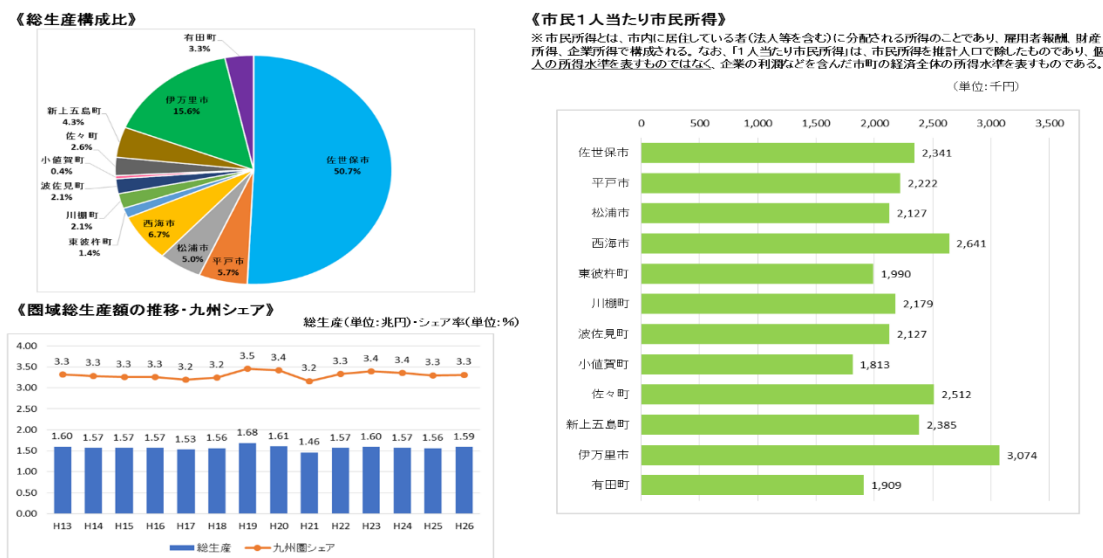
3. 圏域の都市機能の集積状況

(1) 産業

① 総生産・市民所得

本圏域の総生産は 1.6 兆円前後、九州圏（沖縄含む）におけるシェアは 3.3%程度であり、景気動向に連動して成長、縮小しつつ、長期的には横ばい傾向で推移しています。また、本圏域における市民所得トップは伊万里市となっています。

〔図表 5-1 圏域の総生産・市民所得〕

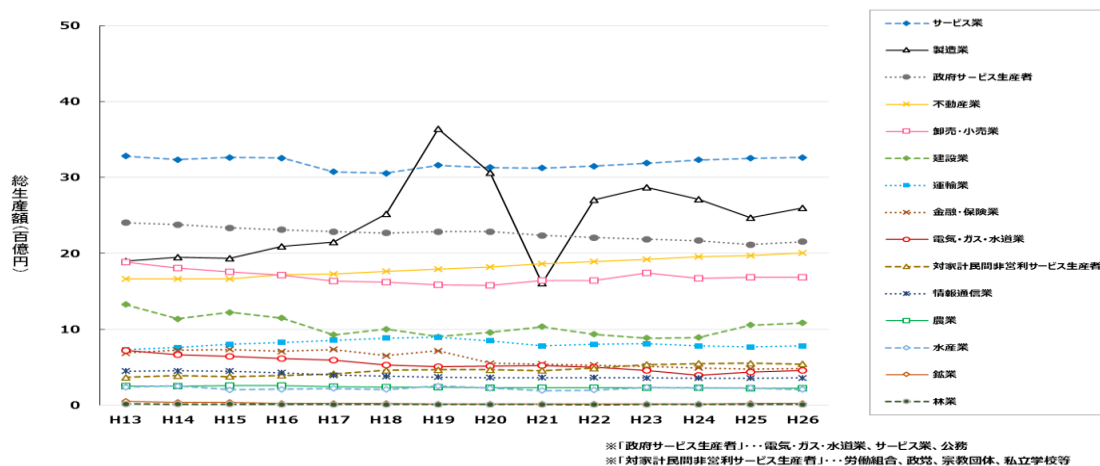


(出典) 長崎県・佐賀県「平成 26 年度市町民経済計算」

② 総生産（経済活動別）

本圏域の総生産を経済活動別に見てみると、「サービス業」、「製造業」、「政府サービス生産者」が大きな産業となっています。年度ごとの推移として、「製造業」におけるリーマンショックの影響と思われる落ち込みが顕著となっていますが、その他の産業は概ね長期的に横ばい傾向となっています。

〔図表 5-2 圏域の総生産（経済活動別）〕

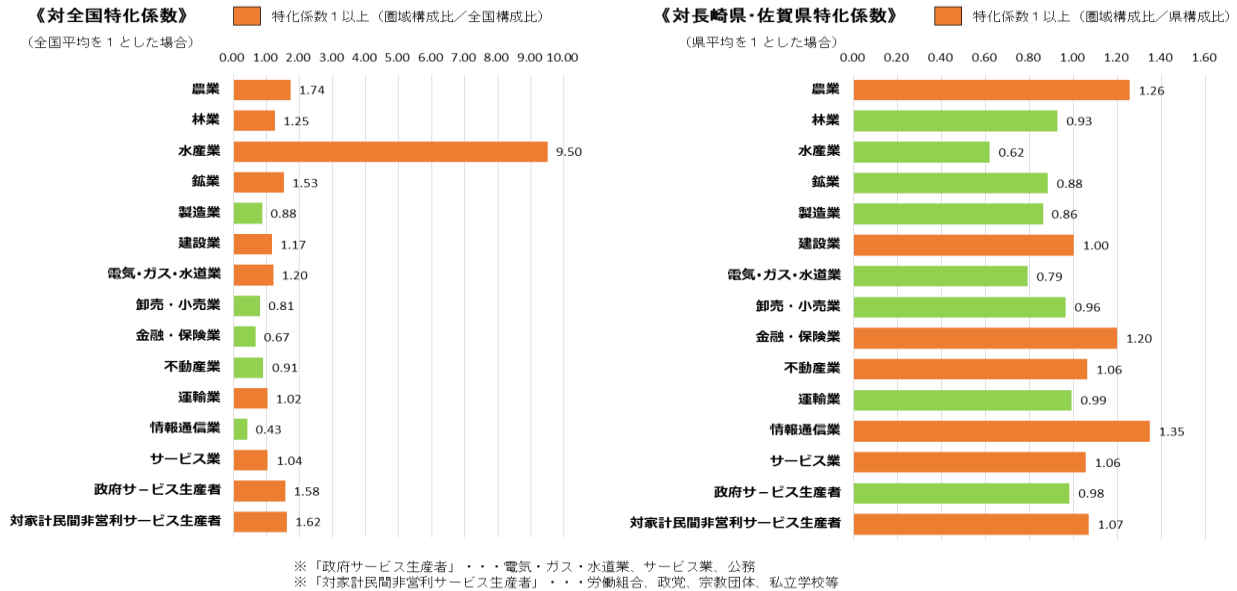


(出典) 長崎県・佐賀県「平成 26 年度市町民経済計算」

③総生産（産業別：特化係数）

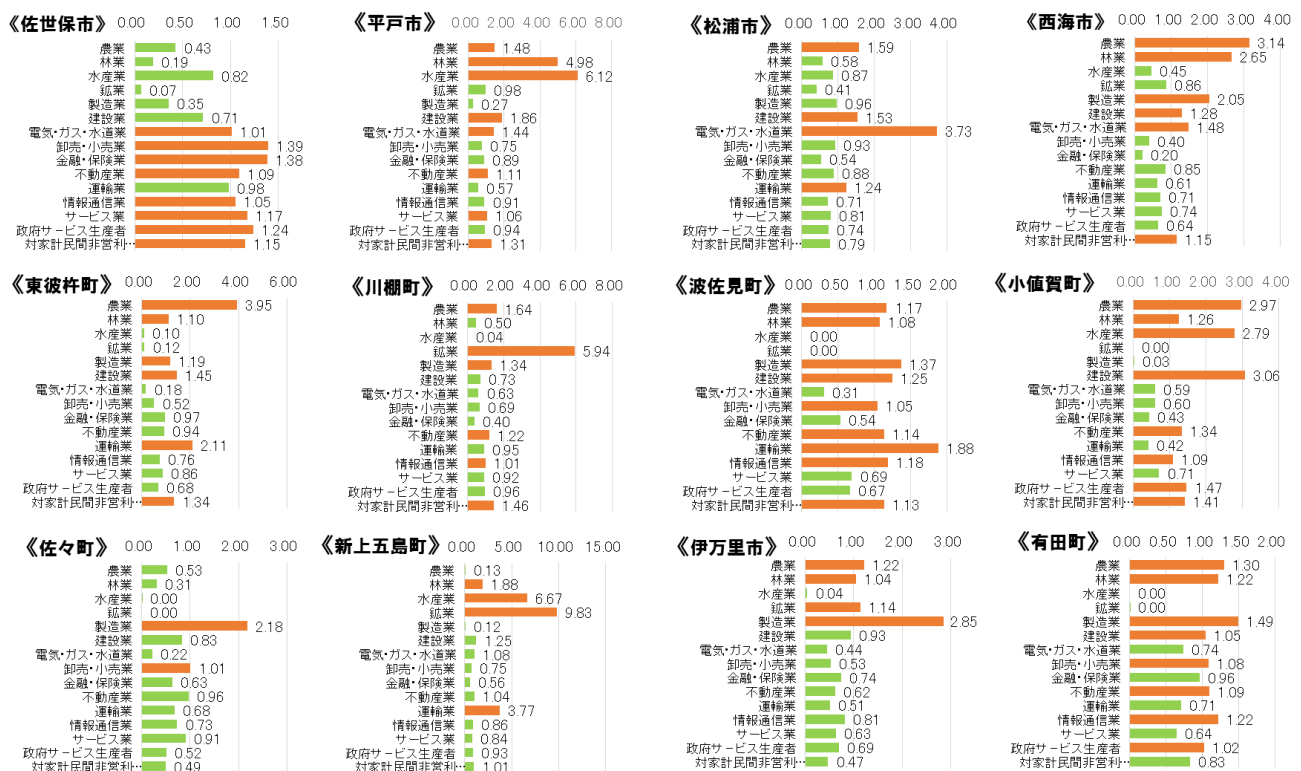
産業別の特化傾向を見ると、全国比較では、第一次産業である水産業の特化が著しくなっています。また、長崎県・佐賀県比較では情報通信業、農業、金融・保険業等に特化傾向が見られます。

〔図表 5-3 圏域の総生産（産業別特化係数）〕



(出典) 長崎県・佐賀県「平成 26 年度市町民経済計算」

〔図表 5-4 圏域の総生産（産業別特化係数）構成市町別〕



(出典) 長崎県・佐賀県「平成 26 年度市町民経済計算」

④産業別事業所数及び従業員数

本圏域内の 12 市町合計の総事業所数は 23,941 箇所、総従業員数は 212,274 人で、そのうち事業所数 47.8%、従業員数 52.7%が佐世保市に集中しています。

その中で、第一次産業では佐世保市、平戸市、松浦市、西海市に事業所及び従業員の集積が見られるほか、第二次産業では佐世保市、伊万里市、波佐見町の集積が大きくなっており、第三次産業でも佐世保市、伊万里市の集積が大きく、従業員数ではほぼ半数が佐世保市に集積しています。

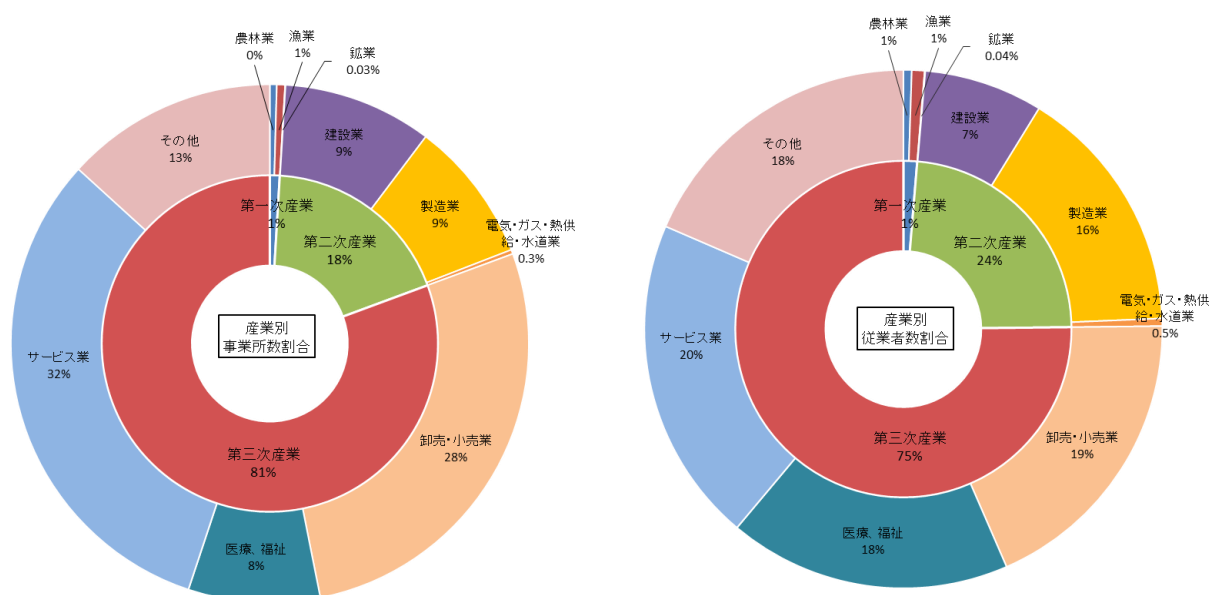
〔図表 6-1 圏域の産業別事業所数及び従業員数（産業別）〕

（単位：事業所、人）

	合計		第一次産業		第二次産業		第三次産業	
	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数	事業所数	従業員数
佐世保市	11,435	111,903	63	1,071	1,629	17,426	9,743	93,406
平戸市	1,853	12,255	31	400	346	2,517	1,476	9,338
松浦市	1,135	9,524	44	348	189	2,988	902	6,188
西海市	1,254	11,301	36	356	240	3,714	978	7,231
東彼杵町	316	3,030	2	14	81	802	233	2,214
川棚町	578	4,934	1	8	112	1,570	465	3,356
波佐見町	992	7,124	2	21	469	3,535	521	3,568
小値賀町	180	819	3	16	29	121	148	682
佐々町	704	6,139	3	39	124	2,259	577	3,841
新上五島町	1,338	7,590	24	274	246	1,311	1,068	6,005
伊万里市	2,811	28,330	14	208	550	9,963	2,247	18,159
有田町	1,345	9,325	3	37	398	3,684	944	5,604
合計	23,941	212,274	226	2,792	4,413	49,890	19,302	159,592

（出典）平成 26 年経済センサス基礎調査

〔図表 6-2 圏域の産業別事業所数割合及び従業員数割合（産業別）〕



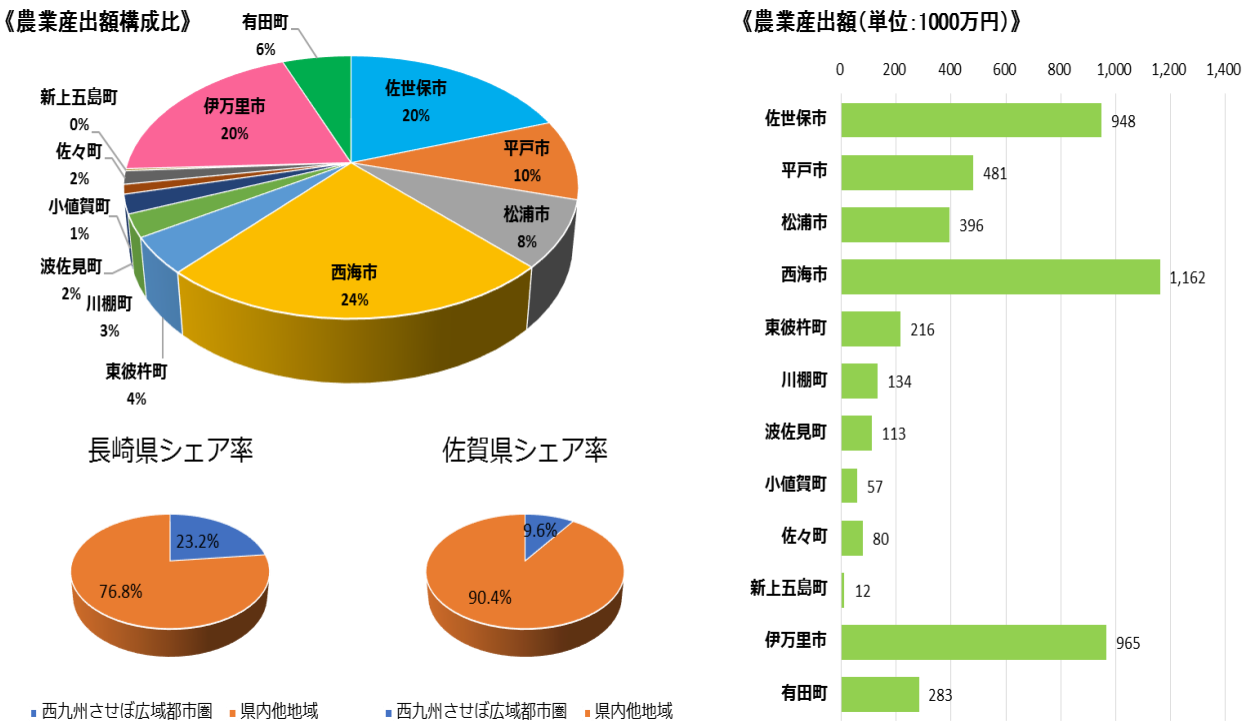
（出典）平成 26 年経済センサス基礎調査

(2)農林業

①農業産出額

農業産出額では西海市が圏域内シェア率 20%でトップとなっており、次に伊万里市、佐世保市が続いています。

〔図表 7-1 圏域の農業産出額〕



(出典) 農林水産省 平成 27 年市町村別農業産出額 (推計)

〔図表 7-2 品目別農業産出額 上位 5 品目：構成市町別〕

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
佐世保市	野菜(209)	果実(175)	肉用牛(176)	米(142)	乳用牛(80)
平戸市	肉用牛(159)	野菜(132)	米(109)	いも類(24)	工芸農作物(15)
松浦市	肉用牛(99)	野菜(79)	米(75)	工芸農作物(29)	鶏(21)
西海市	豚(470)	野菜(243)	果実(176)	肉用牛(68)	鶏・花き(53)
東彼杵町	工芸農作物(51)	野菜(48)	肉用牛・米(34)	加工農産物(20)	果実(15)
川棚町	肉用牛(48)	野菜(28)	花き(23)	米(14)	鶏(4)
波佐見町	米(40)	肉用牛(26)	野菜(23)	鶏(10)	果実(4)
小値賀町	肉用牛(32)	野菜(11)	米(9)	いも類(3)	豆類(1)
佐々町	肉用牛(26)	野菜(21)	米(17)	鶏(9)	工芸農作物(4)
新上五島町	肉用牛(4)	野菜(3)	花き(1)	米(1)	—
伊万里市	肉用牛(246)	野菜(210)	果実(194)	米(155)	鶏(132)
有田町	鶏(154)	肉用牛(44)	米(35)	野菜(24)	果実(9)

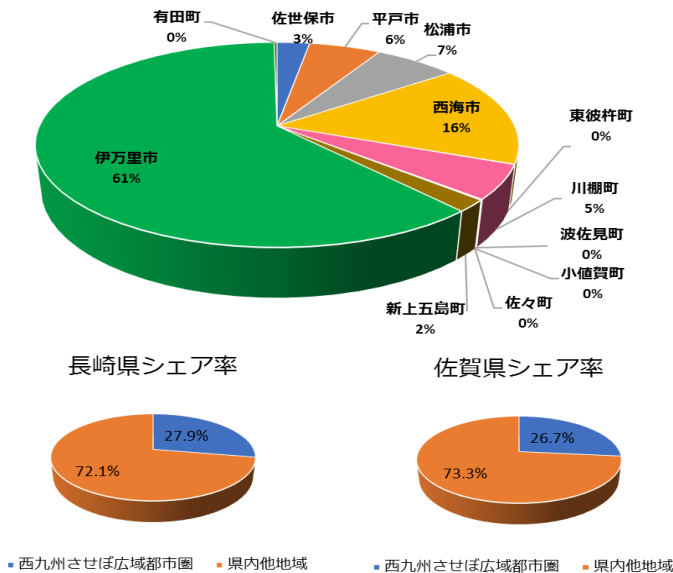
(出典) 農林水産省 平成 27 年市町村別農業産出額 (推計)

②林業総収入

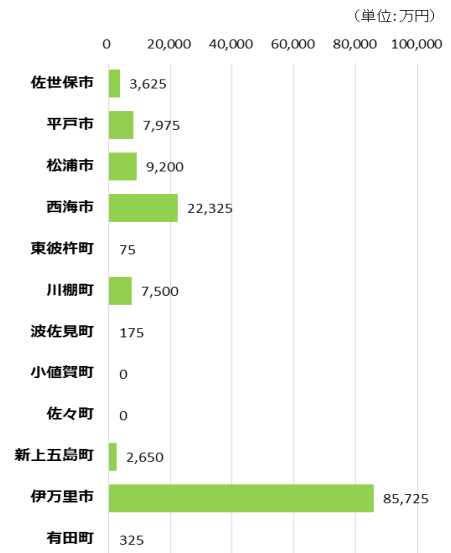
林業総収入では、伊万里市が圏域内シェア率 61%でトップとなっており、次に西海市が続いています。また、佐賀県構成市町の自県内シェア率も高くなっています。

〔図表 7-3 圏域の林業総収入〕

《林業総収入(総額)構成比》



《林業総収入(総額)》



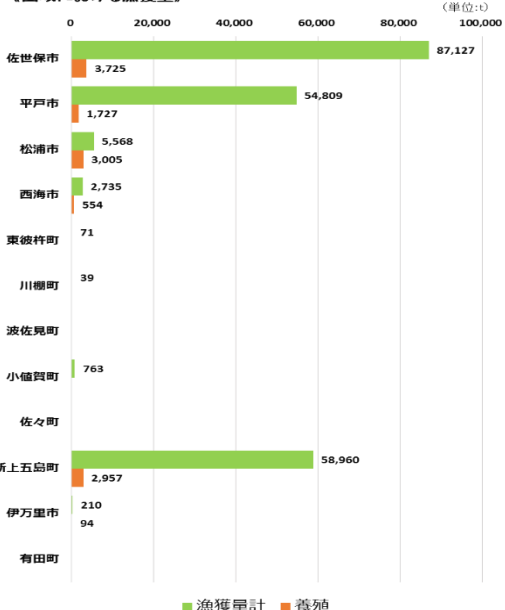
(出典) 2015 農林水産省「農林業センサス」再編加工

(3)水産業

佐世保市が漁獲量、養殖ともトップとなっており、次に新上五島町、平戸市が続いています。

〔図表 8-1 圏域の海面・養殖漁業漁獲量〕

《圏域における漁獲量》



《魚種別・海面漁獲量 上位5種》(単位:ト)

佐世保市	かたぐちいわし	24,905
	うるめいわし	18,034
	さば類	13,394
	まあじ	13,415
	その他の魚類	5,690
平戸市	さば類	21,487
	まあじ	15,508
	ぶり類	4,499
	その他の魚類	3,565
	まいわし	2,705
松浦市	かたぐちいわし	2,316
	その他の魚類	918
	さば類	506
	まあじ	475
	その他の海産類	338
西海市	かたぐちいわし	1,257
	さば類	317
	その他の魚類	257
	まあじ	255
	その他の海産類	114
東彼杵町	その他の水産動物類	19
	その他の魚類	12
	かさみ類	7
	その他のいか類・たこ類	6
	その他の水産動物類	19
川棚町	その他の水産動物類	10
	その他のえび類	4
	このしろ・くろだ、へだ	3
	い・その他の魚類・その	3
	他の海産類	3
小値賀町	ぶり類	238
	その他の魚類	171
	いさき	128
	その他のいか類	33
	まだい	31
新上五島町	さば類	22,327
	まあじ	22,003
	ぶり類	5,183
	その他の魚類	3,928
	するめいか	1,952

伊万里市	その他の魚類	105
	かたぐちいわし	65
	しらす	8
	あなご類・その他のいか類	2
	その他の魚類	105

《魚種別・養殖漁獲量 上位5種》(単位:ト)

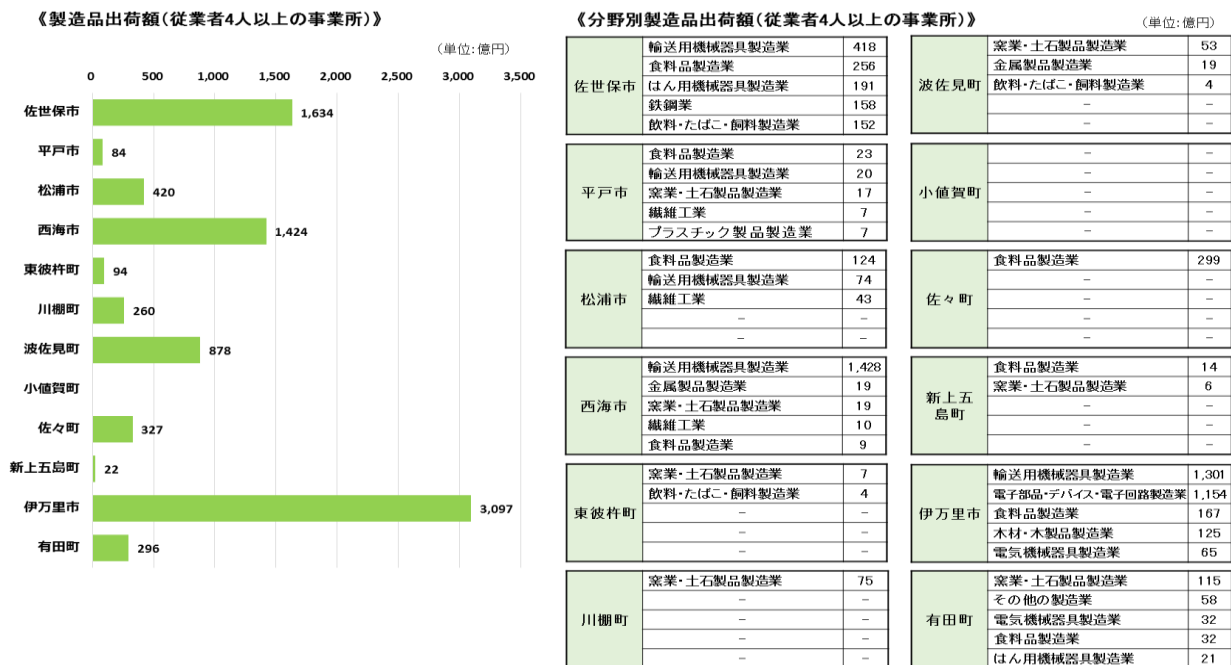
佐世保市	ぶり	1,237
	新門真珠(大玉)	927
	まだい	613
	ふぐ類	487
	新門真珠(中玉)	478
平戸市	ぶり	1,228
	まだい	168
	新門真珠(中玉)	119
	ふぐ類	111
	新門真珠(大玉)	110
松浦市	ぶり	1,267
	ふぐ類	596
	まだい	432
	くろまぐろ	308
	その他の魚類	100
西海市	わかめ類	158
	新門真珠(中玉)	134
	まだい・かき類(殻付き)	58
	ぶり	1,966
	その他のぶり類	404
新上五島町	くろまぐろ	210
	かんぱち	206
	ふぐ類	42
	かき類(殻付き)	10
	伊万里市	

(出典) 平成 27 年海面漁業生産統計調査

(4)製造品出荷額等

造船業（輸送用機械器具製造業）を中心とした工業集積が進んでいます。圏域内では、伊万里市、佐世保市、西海市が高いシェアを占めています。

〔図表 9-1 圏域の製造品出荷額〕



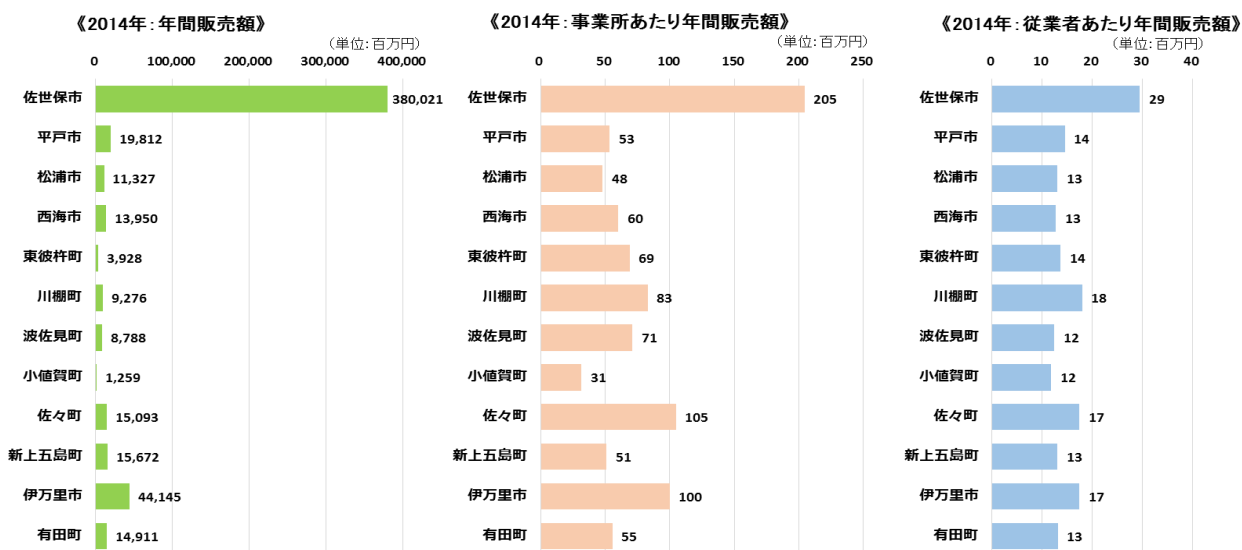
(出典) 平成 26 工業統計調査 (従業員 4 人以上の事業所)

(5)小売業

①小売業年間販売額

佐世保市が年間商品販売額（総額、店舗あたり、従業者あたり）はトップとなっています。事業所あたりの年間商品販売額は佐々町や伊万里市で高くなっています。

〔図表 10-1 圏域の小売年間販売額〕



(出典) 商業統計調査

②大型小売店舗数

大型小売店舗数は、佐世保市が最も多く、次に伊万里市が続いています。

〔図表 10-2 圏域の大型小売店舗数〕

《大型小売店舗数(店舗面積1000平方メートル超)》

《主な大型小売店舗》



ショッピングセンター	イオン大店
ショッピングセンター	サッポロ五福街
ホームセンター	コメリホームセンター佐世保店
総合スーパー	イオン佐世保店
百貨店	佐世保玉屋
ホームセンター	ホームセンターコナン大店
総合百貨店	ハウスオブホス
ショッピングセンター	ヤマダ電機ツクリンド佐世保本店
専門店	高沢ショッピングセンター
総合スーパー	イオン佐世保白岳店
専門店	アルパ
ホームセンター	ホームワイド・マックスバリュ早稲店
食品スーパー	エレナフレッシュ店
食品スーパー	エレナ大野店
ホームセンター	ホームプラザナフコ佐世保東店
専門店	ニトリ佐世保店
食品スーパー	フレッシュエッセ
専門店	ベスト電器佐世保店、グオ佐世保大店
ホームセンター	ホームプラザナフコ佐世保みどりセンター店兼呉館
食品スーパー	まるたか生鮮市場早稲店
食品スーパー	マックスバリュ白岳店
総合スーパー	スーパーセンターライアル佐世保大店
専門店	エディオン佐世保店
総合スーパー	ドン・キホーテ佐世保店
食品スーパー	レッドキヤバックス和店
食品スーパー	エレナ相模店
食品スーパー	エレナ大店
専門店	近藤家具大店
専門店	タイガー佐世保大店、西松屋佐世保大店
食品スーパー	マックスバリュ早稲店
食品スーパー	マックスバリュ早稲店
専門店	リビングミュージアム・リム
総合スーパー	ダイレックス知母店
総合スーパー	ダイレックス佐世保店
専門店	ディスカウントドラッグコスモス早稲店
専門店	ディスカウントドラッグコスモス中里店
食品スーパー	エレナ天神店
専門店	シェパード大店
食品スーパー	まっぴや吉井店
専門店	ドラッグストアモリ白岳店
専門店	ウェーブ本館
専門店	バーニオ・オパウス佐世保店
専門店	ディスカウントドラッグコスモス早稲店
専門店	ディスカウントドラッグコスモス早稲店
食品スーパー	まっぴや相模店
ホームセンター	ホームセンターユートク相模店
専門店	プリズンにやま早稲店
食品スーパー	マルキョウ大店
専門店	テョダ
専門店	ドラッグストアモリ知母店

専門店	ドラッグストアモリ早稲店
専門店	ディスカウントドラッグコスモス早稲店
専門店	ベスト電器早稲店
総合スーパー	ダイレックス早稲店
松浦市	専門店
松浦市	ディスカウントドラッグコスモス松浦店
ホームセンター	ホームプラザナフコ西海道
総合百貨店	大島薬品商店街
西海市	専門店
西海市	ディスカウントドラッグコスモス西海道
総合百貨店	大瀬戸ショッピング
川棚町	専門店
川棚町	ディスカウントドラッグコスモス川棚店、グリーン東彼新市場
食品スーパー	エレナ川棚店
ホームセンター	ホームプラザナフコ波佐見店
波佐見町	食品スーパー
波佐見町	エレナ波佐見店
波佐見町	専門店
波佐見町	ディスカウントドラッグコスモス波佐見店
食品スーパー	マックスバリュ佐々店
食品スーパー	ホームプラザナフコ佐々店
食品スーパー	エレナ佐々店、しまむら佐々店
佐々町	専門店
佐々町	ディスカウントドラッグコスモス佐々店
専門店	ライルスタイルマーケット
専門店	ドラッグストアモリ鶴川店
専門店	佐々ショッピングデパート
総合スーパー	ダイレックス佐々店
ホームセンター	ホームセンター
新上五島町	専門店
新上五島町	テラダホームセンター
食品スーパー	KAMITTY
食品スーパー	オサタ五島店
ホームセンター	ホームセンタービッグヒライ五島店
ホームセンター	グッディ伊万里店
ホームセンター	ホームプラザナフコ伊万里店
総合スーパー	ミスターマックス伊万里店
ホームセンター	ホームセンターユートク伊万里店
食品スーパー	マックスバリュ伊万里駅前店
総合スーパー	ダイレックス伊万里駅前店、ダイソー伊万里駅前店
食品スーパー	エレナ伊万里店
伊万里市	専門店
伊万里市	ベスト電器伊万里店
専門店	T S U T A Y A伊万里店
専門店	ヤマダ電機ツクリンド伊万里店
食品スーパー	ドラッグ&フレッシュドラッグ伊万里店
専門店	ディスカウントドラッグコスモス伊万里中央店
専門店	ディスカウントドラッグコスモス伊万里店
専門店	ブックオフ伊万里店
総合スーパー	ダイレックス伊万里店
ホームセンター	ホームセンターユートク有田店
有田町	ホームセンター
有田町	ホームプラザナフコ有田店
食品スーパー	マックスバリュ有田店
専門店	ディスカウントドラッグコスモス佐佐有田店

(出典) 大型店舗総覧 2018 (店舗面積 1000 平方メートル超)

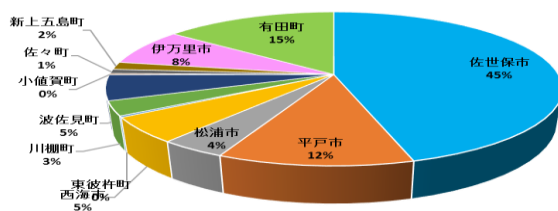
(6)観光

①観光客数

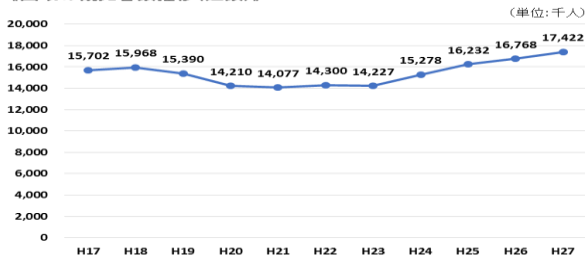
佐世保市が圏域全体の観光客数割合 45%で最も多く、圏域全体では平成 21 年以降、増加傾向が続いています。

〔図表 11-1 圏域への観光客数〕

《平成27年 観光客数割合(延数)》

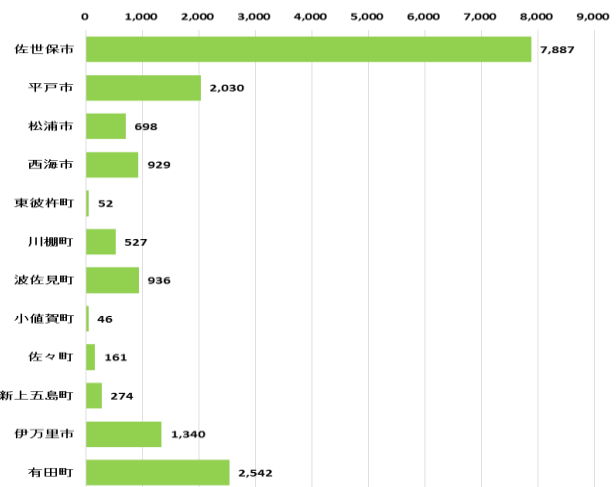


《圏域の観光客数推移(延数)》



《平成27年 観光客数(延数)》

(単位:千人)



(出典) 平成 27 年長崎県観光統計、平成 27 年佐賀県観光客動態調査

(7)医療

圏域全体の病院数は 55 施設、一般診療所は 406 施設、歯科診療所は 243 施設となっており、人口 1 万人あたりの医師数は川棚町が最も多く、次に佐世保市となっています。

〔図表 12-1 圏域の医療機関数〕

《医療機関数》

(単位:施設)

市町名	病院			一般診療所	歯科診療所	人口1万人あたり 医師数 (人/万人)	
	一般	精神	合計				
佐世保市	20	6	26	225	138	25.9	
平戸市	6	1	7	18	13	15.7	
松浦市	3	0	3	13	9	10.3	
西海市	1	1	2	25	11	12.5	
東彼杵町	1	0	1	7	4	16.9	
川棚町	1	0	1	13	6	26.3	
波佐見町	1	1	2	12	7	15.4	
小値賀町	0	0	0	1	1	7.8	
佐々町	0	1	1	12	7	11.7	
新上五島町	1	0	1	20	11	14.7	
伊万里市	8	2	10	40	27	15.9	
有田町	1	0	1	20	9	18.4	
合計	43	12	55	406	243	20.9	

《主要指定病院》

項目	病院名(※佐世保市外の場合は末尾に市町名記載)
三次救急医療体制	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター
二次救急医療体制	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター、独立行政法人労働者健康安全機構 長崎労災病院、地方独立行政法人 北松中央病院、社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院、医療法人光省会 福田外科病院、国家公務員共済組合連合会 佐世保共済病院、医療法人アリス会 京町内科病院、医療法人雄人会 三川内病院、医療法人是心会 久保内科病院、特定医療法人雄博会 千住病院、医療法人篤信会 杏林病院、医療法人わかば会 俵町浜野病院、国民健康保険 平戸市民病院(平戸市)、医療法人青洲会 青洲会病院(平戸市)、平戸市立 生月病院(平戸市)、医療法人医理会 柿添病院(平戸市)、医療法人社団壮志会 押洲医院(松浦市)、独立行政法人国立病院機構 長崎川棚医療センター(川棚町)、小値賀町国民健康保険診療所(小値賀町)、長崎県上五島病院(新上五島町)、医療法人社団再整会 口石病院(伊万里市)、医療法人善幸会 前田病院(伊万里市)、医療法人二期会 小島病院(伊万里市)、医療法人朋友会 山口病院(伊万里市)、医療法人精仁会 隅田病院(伊万里市)、社会医療法人謙仁会 山元記念病院(伊万里市)、医療法人光仁会 西田病院(伊万里市)、独立行政法人地域医療機能推進機構 伊万里松浦病院(伊万里市)、伊万里有田共立病院(有田町)
初期救急医療体制 (休日夜間急患センター)	佐世保市 急病診療所、伊万里 休日・夜間急患医療センター(伊万里市)
地域周産期母子医療センター	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター
災害拠点病院	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター、独立行政法人労働者健康安全機構 長崎労災病院、地方独立行政法人 北松中央病院、長崎県上五島病院(新上五島町)、伊万里有田共立病院(有田町)
長崎DMT指定病院	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター、独立行政法人労働者健康安全機構 長崎労災病院、地方独立行政法人 北松中央病院、独立行政法人国立病院機構 長崎川棚医療センター、長崎県上五島病院(新上五島町青方郷)
がん診療連携拠点病院	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター
がん診療連携推進病院	社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院
高次脳卒中センター	地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター
地域脳卒中センター	独立行政法人労働者健康安全機構 長崎労災病院、社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院
認知症疾患医療センター	社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院

(出典) 厚生労働省 平成 28 年度医療施設調査、平成 26 年医師・歯科医師・薬剤師調査、平成 27 年国勢調査

(8)高等教育機関

圏域における高等教育機関は5施設であり、学生総数は約5,600名となっています。

〔図表 13-1 圏域の高等教育機関〕

分類		名称	学部・学科		学生数		備考
大学	公立	長崎県立大学佐世保校	経営学部	経営学科	143	1,970	平成28年 3月31日 現在
				国際経営学科	60		
			地域創造学部	公共政策学科	126		
				実践経済学科	136		
			経済学部	経済学科	503		
				地域政策学科	495		
				流通・経営学科	483		
			大学院	経済学研究科	24		
	私立	長崎国際大学	人間社会学部	国際観光学科	870	2,195	平成29年 5月1日 現在
				社会福祉学科	267		
			健康管理学部	健康栄養学科	325		
				薬学部	薬学科		
	国立	佐賀大学	芸術地域デザイン学部	〇〇コース	確認中	確認中	確認中
短期大学	私立	長崎短期大学	—	食物科	114	513	平成29年 5月1日 現在
				保育学科	235		
				国際コミュニケーション学科	151		
				専攻科	13		
高等専門学校	国立	佐世保工業高等専門学校	—	機械工学科	209	865	平成28年 3月31日 現在
				電気電子工学科	224		
				電子制御工学科	218		
				物質工学科	214		

(出典) 公開情報等

(9)研究機関

圏域内には農産・水産業に関する試験研究施設が多く立地しています。

〔図表 14-1 圏域の医療機関数〕

分類	所在地	施設名
水産	佐世保市	長崎県栽培漁業センター(県)
		佐世保市水産センター
		佐世保市宇久栽培漁業センター
	小値賀町	小値賀町アワビ種苗センター、小値賀町あわび館(水産加工室)
	新上五島町	新上五島町アワビ中間育成施設
農業	佐世保市	佐世保市食肉衛生検査所
	平戸市	長崎県肉用牛改良センター(県)
	西海市	西海市江島農産加工センター
		西海市西彼農村環境改善センター
	川棚町	長崎県川棚食肉衛生検査所(県)
	東彼杵町	長崎県農林技術開発センター茶業研究室(県)
	小値賀町	小値賀町担い手公社、小値賀町農産物加施設
	新上五島町	新上五島町家畜診療所
窯業	波佐見町	長崎県窯業技術センター(県)
	有田町	佐賀県窯業技術センター(県)
環境	西海市	西海市炭化センター
	伊万里市	佐賀大学海洋エネルギー研究センター

(出典) 公開情報等

(10)公共交通

①主な公共交通機関

種類	事業者名
バス	【佐世保市】西肥自動車、佐世保市交通局、させぼバス、宇久観光バス 【平戸市】平戸ふれあいバス、生月バス、大島ふれあいバス、YOKARO 【松浦市】松浦市乗合バス 【西海市】さいかい交通 【東彼杵町】東彼杵町町営バス 【小値賀町】小値賀交通 【伊万里市】西肥自動車、昭和バス自動車、いまりんバス 【有田町】有田町コミュニティバス
鉄道	九州旅客鉄道(JR)、松浦鉄道(MR)

(出典) 各種公開情報等

②主な公共交通機関利用者数

公共交通機関	利用者数	出典年度
JR(佐世保駅)	1,436,254 人	平成 29 年度
MR(松浦鉄道)	1,680,669 人	平成 29 年度

(出典) 佐世保市資料

③圏域の主な交通網

※図表で整理予定

(11)地域資源

①主な地域資源等

分野	地域資源
自然	【佐世保市】西海国立公園九十九島、弓張岳、烏帽子岳、虚空蔵岳 【平戸市】川内峠、塩俵の断崖、中瀬草原、大賀断崖 【松浦市】不老山総合公園、土谷棚田、イロハ島、椿の群生林、龍王の滝 【佐々町】古川岳遊歩道・展望台 【川棚町】川棚町大崎自然公園、虚空蔵山、日向の棚田 【波佐見町】鬼木棚田 【東彼杵町】多良岳県立自然公園 【小値賀町】赤浜海岸、ポットホール、野崎島ワイルドパーク、姫の松原 【新上五島町】北魚目、奈良尾のあこう大樹 【伊万里市】伊万里湾カブトガニ繁殖地、東山代の明星桜、玄海国定公園 【有田町】岳の棚田、竜門峡
歴史文化	【佐世保市】黒島集落、黒島天主堂、洞窟遺跡 【平戸市】田平天主堂、平戸神楽、平戸のジャングル 【松浦市】鷹島神崎遺跡、松浦党梶谷城跡 【佐々町】市瀬窯跡、狸山支石墓群 【川棚町】片島魚雷発射試験場跡、特攻殉国の碑、木場浮立・百津浮立 【波佐見町】畑ノ原窯跡・中尾上登窯跡・智恵治窯跡、皿山人形浄瑠璃 【東彼杵町】千綿人形浄瑠璃 【小値賀町】旧野首教会、沖ノ神嶋神社神官屋敷 【新上五島町】崎浦の五島石集落、頭ヶ島天主堂、青砂ヶ浦天主堂、上五島神楽 【伊万里市】伊万里トンテントン祭り、脇野の大念仏、府招の浮立、大川内鍋島窯跡 【有田町】有田内山重要伝統的建造物群保存地区、泉山磁石場跡、有田大イチョウ、天狗谷窯跡、有田異人館
観光	【佐世保市】ハウステンボス、九十九島パールシーリゾート、九十九島動植物園、山暖簾 【平戸市】平戸城、根獅子海水浴場、生月サンセットウェイ 【松浦市】つばき荘、ほんなもん体験 【佐々町】皿山公園(窯体験施設) 【川棚町】大崎くじゃく園、大崎海水浴場、川棚大崎温泉しおさいの湯 【波佐見町】陶芸の館、西の原、波佐見温泉、陶芸の里中尾山 【東彼杵町】千綿溪谷、JR 千綿駅、龍頭泉いこいの広場 【小値賀町】あわび館、野崎島ビジターセンター、野崎島自然学塾村 【伊万里市】伊万里鍋島焼会館、伊万里・有田焼伝統産業会館、伊万里温泉白磁乃湯 【有田町】有田ポーセリングパーク

分野	地域資源
伝統工芸	【佐世保市】三川内焼、佐世保独楽 【波佐見町】波佐見焼 【小値賀町】小値賀焼 【伊万里市】伊万里・鍋島焼 【有田町】有田焼
特産物	【佐世保市】世知原茶、九十九島かき、九十九島いりこ、九十九島とらふぐ、メロン、いちご 【平戸市】平戸牛、いか、あご 【松浦市】旬あじ、旬さば、松浦とらふぐ、松浦本まぐろ、福島くるまえび、アールスメロン、キンショーメロン、御厨ぶどう 【佐々町】いちご、お茶、シロウオ 【川棚町】小串トマト、長崎和牛、川棚なまこ、ひなた米/棚田米 【東彼杵町】そのぎ茶 【小値賀町】値賀咲/長崎イサキ、実えんどう、落花生 【新上五島町】五島うどん、かんころもち 【伊万里市】伊万里牛、伊万里梨・ぶどう、車エビ 【有田町】キンカン、アスパラガス、棚田米、酒、焼酎

(出典) 各自治体への聞き取り調査

②主な博物館、資料館等

市町名	施設名
佐世保市	木場浮立資料館兼伝承研修所、島瀬美術センター、佐世保史料館(セイルタワー)、浦頭引揚記念資料館、うつわ歴史館、小佐々郷土館、世知原炭鉱資料館、宇久島資料館、少年科学館
平戸市	松浦史料博物館、平戸市生月町博物館・島の館、平戸オランダ商館
松浦市	福島歴史民俗資料館、松浦市立埋蔵文化財センター
西海市	西海市崎戸歴史民俗資料館
川棚町	川棚町郷土資料館
波佐見町	農民具資料館
東彼杵町	歴史民俗資料館
小値賀町	小値賀町歴史民俗資料館
新上五島町	鯨賓館ミュージアム
伊万里市	歴史民族資料館、陶器商家資料館、伊万里・鍋島ギャラリー、海のシルクロード館、伊万里・有田焼伝統産業会館
有田町	有田歴史民俗資料館、有田焼参考館、有田陶磁美術館、有田異人館

(出典) 各自治体への聞き取り調査

Ⅲ 西九州させば広域都市圏の将来像

1. 目指すべき将来の姿

圏域を取り巻く環境や今後の社会情勢等を踏まえ、圏域の将来像を

「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」 (スローガン)

とし、圏域住民の皆様の笑顔溢れ、彩のある暮らしを支えていくため、構成市町の個性を尊重しつつ、相互に助け合いながら、ひとが「住みたい」「住み続けたい」と願える魅力的な圏域の創造を目指します。

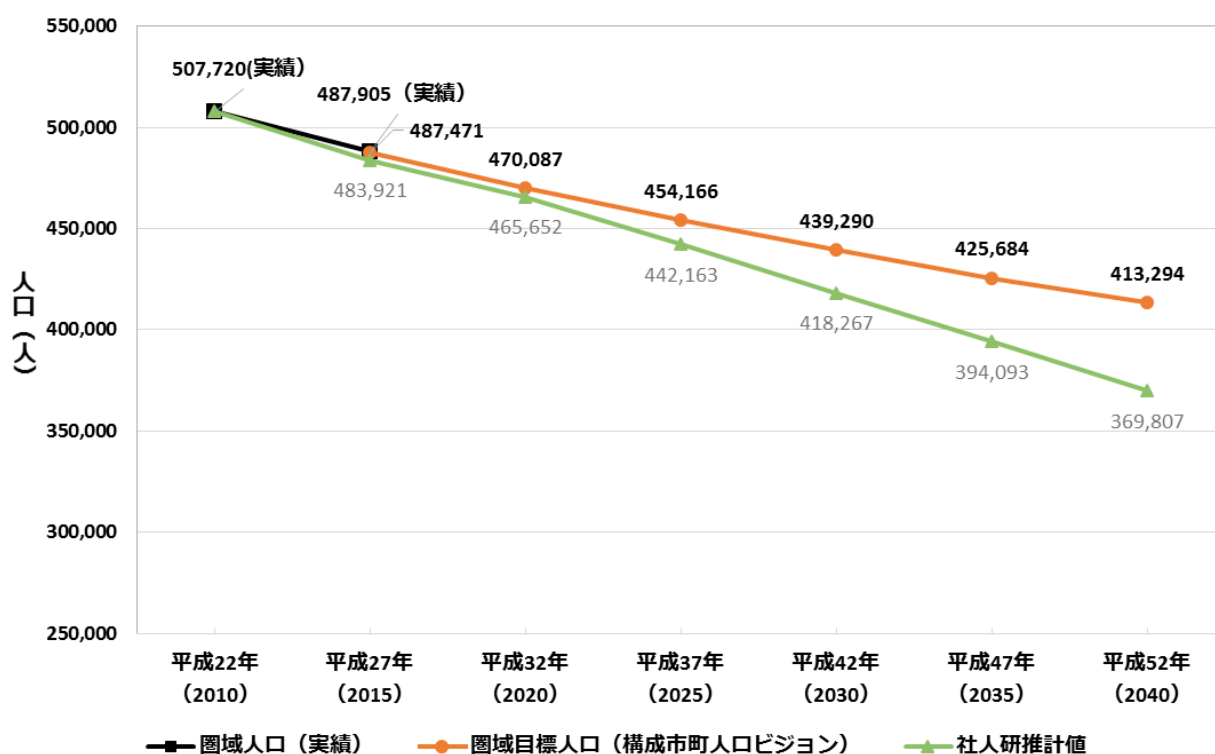
2. 将来の圏域人口の目標

西九州させば広域都市圏の目標人口 2040（平成 52）年 41.3 万人

構成市町が策定している人口ビジョンから圏域の 2040 年（平成 52 年）の目標人口を 41 万 3 千人程度と設定。

社人研推計値と比較し約 4 万 3 千人多くなっていますが、各市町が策定した総合戦略や、当都市圏ビジョンに位置付けた具体的な取組みを推進し、首都圏等の都市部への転出抑制を図っていくことで目標人口の達成を目指します。

〔図表 16-1 将来の圏域人口目標〕



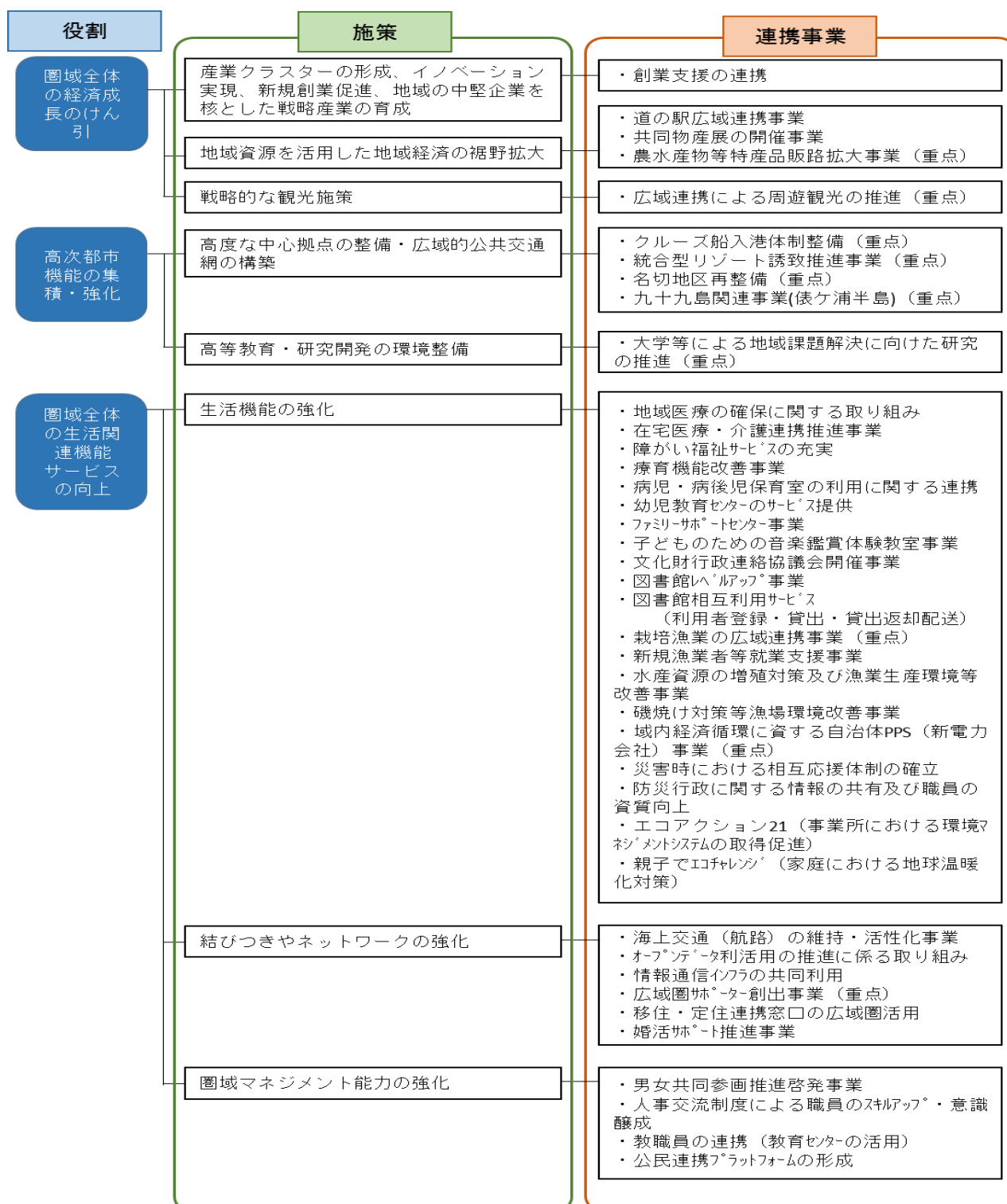
（出典）「国勢調査」、「構成市町人口ビジョン」
「国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成 30 年 3 月）、

IV 将来像の実現に向けた具体的取組

都市圏に求められる3つの役割に基づき、以下の施策及び連携事業の展開を図っていき、所要の効果検証（3年目）を行い、施策及び連携事業の見直しを実施することで、効果的な取組みを推進していきます。

また、連携事業の中で、圏域人口のダム機能に対する効果の発現に大きく寄与する事業については、重点事業として位置付けることで優先的に財源を配分し、重点的、継続的に取り組んでいきます。

《施策体系》



1 圏域全体の経済成長のけん引

クルーズ船客をはじめとした圏域外からの観光客を周遊させ、圏域内経済の好循環を目指します。また、造船等の製造業や農水産業等を強化していくことで、都市部への人口流出に歯止めをかけるとともに、圏域外からの人口流入に取り組んでいきます。

【施策】	○産業クラスターの形成、イノベーション実現、新規創業促進、地域の中堅企業を核とした戦略産業の育成
------	--

〔施策の方向性〕

分野	方向性
商工	・海外ビジネス、異業種交流分野等での研修・セミナー開催を通じた新規創業の機運促進を行っていく ・中小企業・労働福祉に関する業務を集約することによるスケールメリットを生かしたサービス充実・展開を行っていく ・就職に伴う若年層の流出を抑制することなどを目的として、各市町で取り組む企業誘致を連携して取り組むことにより、圏域内での雇用促進、若者の定着に結び付けていく ・造船業における共通課題の解決、効率性及び生産性を高めていく

〔K P I（重要業績評価指標）〕

指標名	現状値	目標値（平成 35 年度）
新規創業者数		

〔具体的取組み〕（【★】：重点事業＝本圏域で重点的、継続的に取り組む事業）

No.	1	事業名	創業支援の連携												
事業概要			・ 佐世保市産業支援センター事業の圏域内での広域展開（拡充）。 ・ 佐世保市産業支援センター内に設置しているインキュベーション（創業支援施設）への圏域内関係自治体内の創業希望者も入居の対象とする。												
関係市町構成数			平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計	
				●		●	●	●	●	●		●	●	8	
連携による効果			創業者の増加による経済活性化												
事業費（千円）			2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)	合計							
			25, 193	25, 193	25, 193	25, 193	25, 193	25, 193	125, 965						
国及び県補助制度等															
役割分担			佐世保市	佐世保市産業支援センター事業の広域展開											
			関係市町	各市町内での各種支援機関（商工会や金融機関等）から創業希望者に対するインキュベーション施設の情報提供											

【施策】	○地域資源を活用した地域経済の裾野拡大
------	---------------------

〔施策の方向性〕

分野	方向性
商工	・進出企業と圏域内企業との取引拡大を図ることにより、地域経済への波及効果を求めていく ・圏域内特産品を相互に販売促進する機会、仕組みづくりを行っていく
農水	・地域の農水産物の消費拡大促進のため、圏域で連携した販売イベントにより多種多様な商品が揃うことで集客力・認知度・販売力の向上につなげていく

〔K P I（重要業績評価指標）〕

指標名	現状値	目標値（平成 35 年度）
農水産物総生産額		

〔具体的取組み〕（【★】：重点事業＝本圏域で重点的、継続的に取り組む事業）

No.		事業名										
事業概要												
関係市町構成数	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
連携による効果												
事業費（千円）	2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)	合計						
国及び県補助制度等												
役割分担	佐世保市											
	関係市町											

☞農水産物等特産品販路拡大事業【★】

☞道の駅広域連携事業

☞共同物産展の開催事業

【施策】	○戦略的な観光施策
------	-----------

〔施策の方向性〕

分野	方向性
観光	・圏域内観光資源を有機的に結び付け、域内交流人口の拡大及び経済活動活性化を検討する ・共通するコンセプトを持った自治体と観光資源を共有し、共同でマーケティング・プロモーションを検討する ・自治体が所管する観光施設は各々が適正に管理することが最適であり、自然保護や自然教育というソフト面での視点によって、各施設の魅力向上に繋げる連携を検討する
国際	・市民の国際理解促進事業においては、広域的な観光推進に貢献できる人的体制の整備や、国際人材育成関係のセミナー等の実施募集、基地内大学の募集広報地域の拡大等、圏域で取り組めるよう検討していく ・海外都市連携（ビジネス連携）においては、圏域内の企業を取り込むことで、連携先の海外都市の企業に対してより精度の高いビジネスマッチング提案を検討していく

〔K P I（重要業績評価指標）〕

指標名	現状値	目標値（平成 35 年度）
観光入込客数		

〔具体的取組み〕（【★】：重点事業＝本圏域で重点的、継続的に取り組む事業）

No.		事業名												
事業概要														
関係市町構成数			平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
連携による効果														
事業費（千円）			2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)	合計						
国及び県補助制度等														
役割分担			佐世保市											
			関係市町											

☞ 広域連携による周遊観光の推進【★】

2 高次都市機能の集積・強化

経済けん引や生活機能の充実を図る上で必要となる拠点的な施設を整備します。また、圏域の中心的交流部となる名切地区や、代表的な景勝地の整備、救急医療体制の充実等により、中心市としての都市機能を向上させます。

【施策】	○高度な中心拠点の整備、広域的公共交通網の構築
------	-------------------------

〔施策の方向性〕

分野	方向性
拠点 ネッ トワ ーク	・ゲートウェイ機能強化を図り、拠点施設（子ども遊び場、港湾整、拠点公園）の整備を進めていく ・地方型 I R 事業として、西九州北部地域、ひいては九州全域が一丸となるような I R を実現し、地域経済への波及効果拡大を目指す

〔K P I（重要業績評価指標）〕

指標名	現状値	目標値（平成 35 年度）
入港船舶数		
事業進捗率		

〔具体的取組み〕（【★】：重点事業＝本圏域で重点的、継続的に取り組む事業）

No.		事業名											
事業概要													
関係市町構成数	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計	
連携による効果													
事業費（千円）	2019（H31）		2020（H32）		2021（H33）		2022（H34）		2023（H35）		合計		
国及び県補助制度等													
役割分担	佐世保市												
	関係市町												

☞クルーズ船入港体制整備【★】

☞統合型リゾート誘致推進事業【★】

☞九十九島関連事業（俵ヶ浦半島）【★】

☞名切地区再整備【★】

【施策】	○高等教育・研究開発の環境整備
------	-----------------

〔施策の方向性〕

分野	方向性
マネジメント	・活気と魅力ある地域社会の創出に向けて、九州西部地域大学・短期大学産学官連携プラットフォームとの連携により高等教育の機能が充実・発展するよう支援を行う。また、圏域内の地域課題解決に向けた大学等との共同研究の推進や、様々な分野で地域連携、地域貢献が促進されるよう努める。

〔K P I（重要業績評価指標）〕

指標名	現状値	目標値（平成 35 年度）
大学等との共同研究等による地域課題の解決率		

〔具体的取組み〕（【★】：重点事業＝本圏域で重点的、継続的に取り組む事業）

No.		事業名												
事業概要														
関係市町構成数			平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
連携による効果														
事業費（千円）			2019(H31)		2020(H32)		2021(H33)		2022(H34)		2023(H35)		合計	
国及び県補助制度等														
役割分担			佐世保市											
			関係市町											

☞大学等による地域課題解決に向けた研究の推進【★】

3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上

人事交流・研修の共同開催等による人材育成、図書館等の相互利用による住民サービスの向上、また、行政事務の集約等により、圏域全体の行政業務の効率化、安定的行政運営を図っていきます。

【施策】	○生活機能の強化に係る政策分野
------	-----------------

〔施策の方向性〕

分野	方向性
医療 ・ 福祉	・「医療提供体制の充実」や「医療の質の確保の維持」に向け、広域で取り組んでいく ・障がい者に関わる「地域での生活支援」や「社会参加・就労支援」の理解促進、啓発事業について、研修等により広域的に実施していく
子育て	・県の事業(保健所等)と重複するものは、従来どおりの対応が適当である等、事業内容によって広域化の可能性は異なると考えるが、「療育環境改善」、「ファミリーサポート」、「病児・病後児保育室の利用」、「幼児教育の充実」等、自治体間における施設・機能の相互利用等を含め検討を進めていく
教育 ・ 文化	・共通する文化財に関する情報発信や化財事務に関する共通課題の解決、文化財研修等協議の場を持ち、効率的統一的な業務の推進のほか、職員のスキルを高めていく ・各学校が地域特性（地域・子どもの実態）に応じた学校経営を行うことが最適。ただし、教職員が共通の研修を受講することにより情報共有や指導技術等を錬磨することができ、教職員の資質向上につなげていく ・圏域の図書館相互利用により利用者の利便性及び文化水準の向上につなげていく ・広域住民の文化創造活動および地域活性化の拠点として設置されたアルカス SASEBO の運営においては、その設置目的を達成し、持続可能な運営（経営）を実現するため、事業対象の広域化に努めていく
農水	・海域の資源回復が必要であるため、海域全体での栽培漁業の推進等、水産資源の増殖を図る ・新規担い手となる人材の確保及び技術研修・着業支援、着業後の離職防止等を圏域全体で図り、漁業者の減少に歯止めをかける ・漁場環境の悪化は海域全体の現象であるため、広範囲での対策が必要であり、現状分析・対策の研究・有効手段の共有等を図り、海域全体の漁場環境の改善・回復を図っていく
地域 振興	・民間需要家にとって必要経費（電気料金）をもって地域貢献出来る受け皿となるよう仕組みを整える。 ・連携市町からの推薦により電気小売りの取次店（地域おこし団体、エリアマネジメント団体等）を選定し、取次に係る手数料を支払う仕組みを整える。 ・圏域内の電気料金を域内循環させることによる収益をもって、圏域の経済発展のため公益事業（PPP推進、まちづくり団体の法人化支援など）を実施する。
防災	・大規模災害時の応急対応は自治体単独では困難になることから、他自治体と協定締結等により普段から支援体制等を構築し、連携しておくことが必要である ・自主防災組織の結成促進や組織の活性化、地域住民への防災意識の高揚などは各自治体がそれぞれ行うべきことであるが、平成 29 年度から市で実施している防災リーダー養成講習会等を広域で検討していく
環境	・本市のごみ処理施設及びし尿処理施設における処理能力と各市町におけるごみやし尿の発生量の動向に基づき、中長期的な広域処理の可能性について検討する

	・環境保全活動の推進において、圏域内自治体が連携しながら環境啓発イベントや啓発広報等の事業実施に向け検討する
--	--

〔K P I（重要業績評価指標）〕

指標名	現状値	目標値（平成 35 年度）
佐世保市以外の住民の病児保育室登録者数		
図書館の貸出利用者数		
計画種苗に対する供給率		

〔具体的取組み〕（【★】：重点事業＝本圏域で重点的、継続的に取り組む事業）

No.		事業名										
事業概要												
関係市町構成数	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
連携による効果												
事業費（千円）	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)	2022(H34)	2023(H35)	合計						
国及び県補助制度等												
役割分担	佐世保市											
	関係市町											

- ☞地域医療の確保に関する取り組み
- ☞在宅医療・介護連携推進事業
- ☞障がい福祉サービスの充実
- ☞療育機能改善事業
- ☞病児・病後児保育室の利用に関する連携
- ☞幼児教育センターのサービス提供
- ☞ファミリーサポートセンター事業
- ☞子どものための音楽鑑賞体験教室事業
- ☞文化財行政連絡協議会開催事業
- ☞図書館相互レベルアップ事業（研修・講習会の共同開催）
- ☞図書館相互利用サービス（利用者登録・貸出）
- ☞図書館相互利用サービス（貸出・返却の配送サービス）
- ☞栽培漁業の広域連携事業【★】
- ☞新規漁業者等就業支援事業
- ☞水産資源の増殖対策及び漁業生産環境等改善事業
- ☞磯焼け対策等漁場環境改善事業

- ☞域内経済循環に資する自治体 PPS（新電力会社）事業【★】
- ☞災害時における相互応援体制の確立
- ☞防災行政に関する情報の共有及び職員の資質向上
- ☞エコアクション 21（事業所における環境マネジメントシステムの取得促進）
- ☞親子でエコチャレンジ（家庭における地球温暖化対策）

【施策】	○結びつきやネットワークの強化に係る政策分野
------	------------------------

〔施策の方向性〕

分野	方向性
公共交通	・離島航路対策では、母港平準化及び利便性の高い運行ダイヤを実現するための協議を継続的に関係自治体と行うことについて、連携事業化を検討する
ICT	・圏域内の行政情報を共有、一体的に提供することで、利用者の利便性向上を図る ・システム等の標準化・共同化による事務効率化等を図る
インフラ	・水道の安定供給や下水の安定処理を持続していくため、県の積極的な関与のもと、各自治体の地勢条件、人口、財政状況等を総合的に勘案し、経営基盤の強化につながる広域連携の形態を検討していく ・関連性のある景観資源の PR のためには、関連市が一体となり情報発信を行うことを検討していく ・相互の景観形成や景観資産の保全を図るため、バッファゾーンとなるエリアでの認識共有を検討していく
移住定住	・圏域内各地域の魅力を打ち出し、一体感をもった移住定住施策の検討を進めていく
市民生活	・広域化により多くの結婚希望者が出会える場を創設し、婚活イベント等の情報発信を連携することで、成婚者の増が見込まれ、人口減少の抑制に繋げていく

〔K P I（重要業績評価指標）〕

指標名	現状値	目標値（平成 35 年度）
移住者数		

〔具体的取組み〕（【★】：重点事業＝本圏域で重点的、継続的に取り組む事業）

No.		事業名												
事業概要														
関係市町構成数			平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
連携による効果														
事業費（千円）			2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)	2022(H34)	2023(H35)	合計						

国及び県補助制度等		
役割分担	佐世保市	
	関係市町	

- ☞海上交通（航路）の維持・活性化事業
- ☞オープンデータ利活用の推進に係る取り組み
- ☞情報通信インフラの共同利用
- ☞広域圏サポーター創出事業【★】
- ☞移住・定住連携窓口の広域圏活用
- ☞婚活サポート推進事業

【施策】	○圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野
------	-----------------------

〔施策の方向性〕

分野	方向性
マネジメント	・圏域内で啓発セミナー等を実施し、男女共同参画について住民の意識向上を図っていく ・圏域内において、人材育成のノウハウや講師・講演の情報を共有する

〔K P I（重要業績評価指標）〕

指標名	現状値	目標値（平成 35 年度）
交流職員等の人数		

〔具体的取組み〕（【★】：重点事業＝本圏域で重点的、継続的に取り組む事業）

No.		事業名										
事業概要												
関係市町構成数	平戸市	松浦市	西海市	東彼杵町	川棚町	波佐見町	小値賀町	佐々町	新上五島町	伊万里市	有田町	合計
連携による効果												
事業費（千円）	2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)	合計						
国及び県補助制度等												
役割分担	佐世保市											
	関係市町											

- ☞男女共同参画推進啓発事業
- ☞人事交流制度による職員のスキルアップ・意識醸成
- ☞教職員の連携（教育センターの活用）

☞ 公民連携プラットフォームの形成